

(様式第10)

番 号
平成26年10月 1日

東海北陸厚生局長 殿

三重大学医学部附属病院長
開設者名 伊藤 正明 印

国立大学法人三重大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和23年法律第205号）第12条の3の規定に基づき、平成26年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒514-8507 三重県津市江戸橋2丁目174
氏 名	病院長 伊藤 正明

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

国立大学法人三重大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒 514 - 8507	電話(059) 232 - 1111
三重県津市江戸橋2丁目174	

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="radio"/> 1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/> 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	○有	・	無
内科と組み合わせた診療科名等			
1 神経内科 2 3 4 5 6 7			
8 9 10 11 12 13 14			
診療実績			
総合内科、循環器内科、消化器・肝臓内科、呼吸器内科、腎臓内科、血液内科、腫瘍内科、糖尿病・内分泌内科、総合診療科			

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科名等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	○有 ・ 無					
外科と組み合わせた診療科名等						
1 小児外科	2 心臓血管外科	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
診療実績						
一般外科、消化管外科、肝胆膵・移植外科、呼吸器外科、乳腺外科						

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他標榜していることが求められる診療科名

①精神科	②小児科	③整形外科	④脳神経外科	⑤皮膚科	⑥泌尿器科	⑦産婦人科
8 産科	9 婦人科	⑩眼科	⑪耳鼻咽喉科	⑫放射線科	13 放射線診断科	
14 放射線治療科	⑮麻酔科	16 救急科				

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	○有 ・ 無					
歯科と組み合わせた診療科名等						
1 歯科口腔外科	2	3	4	5	6	7
歯科の診療体制						

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 循環器科	2 形成外科	3 病理診断科	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
30床	床	床	床	655床	685床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成26年 9月 1日現在)

職 種	常 勤	非 常 勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	420 人	23 人	425.0 人	看護補助者	80 人	診療エックス線技師	0 人
歯科医師	17 人	1 人	17.6 人	理学療法士	7 人	臨床検査技師	55 人
薬 剤 師	49 人	0 人	49.0 人	作業療法士	2 人	臨床検査衛生検査技師	1 人
保 健 師	1 人	2 人	2.2 人	視能訓練士	7 人	臨 床 検 査 師	0 人
助 産 師	28 人	3 人	29.8 人	義肢装具士	0 人	その他	0 人
看 護 師	人	人	人	臨床工学技士	17 人	あん摩マッサージ指圧師	0 人
准看護師	0 人	6 人	4.2 人	栄 養 士	0 人	医療社会事業従事者	4 人
歯科衛生士	2 人	0 人	2.0 人	歯科技工士	2 人	その他の技術員	22 人
管理栄養士	6 人	6 人	10.8 人	診療放射線技師	37 人	事務職員	213 人
						その他の職員	47 人

(注) 1 申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。

(注) 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。

(注) 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成26年 8月 1日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	33 人	眼 科 専 門 医	5 人
外 科 専 門 医	48 人	耳鼻咽喉科専門医	7 人
精 神 科 専 門 医	6 人	放射線科専門医	8 人
小 児 科 専 門 医	12 人	脳神経外科専門医	13 人
皮 膚 科 専 門 医	10 人	整形外科専門医	17 人
泌尿器科専門医	11 人	麻 酔 科 専 門 医	7 人
産婦人科専門医	8 人	救 急 科 専 門 医	14 人
		合 計	199 人

(注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
1日当たり平均入院患者数	529 人	13 人	542 人
1日当たり平均外来患者数	1,125 人	98 人	1,222 人
1日当たり平均調剤数			625 剤
必 要 医 師 数			122 人
必 要 歯 科 医 師 数			7 人
必 要 薬 剤 師 数			19 人
必 要 (准) 看 護 師 数			313 人

(注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。

(注) 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

(注) 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。

(注) 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

(注) 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

9 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要	
集中治療室	608 m ²	鉄筋コンクリート	病床数	12床
			人工呼吸装置	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無
無菌病室等	[固定式の場合] [移動式の場合]	床面積 台数	374 m ² 台	病床数 34床
医薬品 情報管理室	[専用室の場合] [共用室の場合]	床面積 共用する室名	53 m ² なし	
化学検査室	41 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 遠心機、クリーンベンチ	
細菌検査室	81 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 顕微鏡、遠心機、クリーンベンチ	
病理検査室	236 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 顕微鏡、染色装置	
病理解剖室	32 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 電動昇降式解剖台	
研究室	657 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 遺伝子解析装置、液体クロマトグラフ、自動洗浄機	
講義室	1,423 m ²	鉄筋コンクリート	室数	18室
図書室	759 m ²	鉄筋コンクリート	室数	2室
			収容定員	1,089人
			蔵書数	54,000冊程度

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

(注) 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算 定 期 間		平成25年 4月 1日～平成26年 3月31日	
紹介率	72.2 %	逆紹介率	44.3 %
算 出 根 拠	A：紹介患者の数		12,787人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数		8,293人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数		720人
	D：初診の患者の数		18,702人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

(注) 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

(注) 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	副腎腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	取扱患者数	0 人
当該医療技術の概要			
ラジオ波通電用手電極をCT画像ガイド下にて経皮的に腫瘍に穿刺し、腫瘍に対してラジオ波発生装置による凝固療法			
医療技術名	舌下免疫療法	取扱患者数	0 人
当該医療技術の概要			
スギ花粉症の原因であるスギ花粉のエキスを食パンのかけらにたらし、舌の下に2～3分程度含むことにより、エキスを継続的に体内に入れて体を慣らし、アレルギー反応を減らす			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

- (注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。
- (注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾 患 名	取扱患者数	疾 患 名	取扱患者数
・ベーチェット病	54 人	・膿疱性乾癬	9 人
・多発性硬化症	53 人	・広範脊柱管狭窄症	1 人
・重症筋無力症	50 人	・原発性胆汁性肝硬変	47 人
・全身性エリテマトーデス	135 人	・重症急性膵炎	7 人
・スモン	2 人	・特発性大腿骨頭壊死症	17 人
・再生不良性貧血	43 人	・混合性結合組織病	21 人
・サルコイドーシス	65 人	・原発性免疫不全症候群	3 人
・筋萎縮性側索硬化症	25 人	・特発性間質性肺炎	6 人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	198 人	・網膜色素変性症	38 人
・特発性血小板減少性紫斑病	66 人	・プリオン病	1 人
・結節性動脈周囲炎	16 人	・肺動脈性肺高血圧症	23 人
・潰瘍性大腸炎	292 人	・神経線維腫症	20 人
・大動脈炎症候群	18 人	・亜急性硬化性全脳炎	0 人
・ビュルガー病	9 人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	1 人
・天疱瘡	32 人	・慢性血栓性肺高血圧症	13 人
・脊髄小脳変性症	44 人	・ライソゾーム病	0 人
・クローン病	156 人	・副腎白質ジストロフィー	0 人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	2 人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0 人
・悪性関節リウマチ	6 人	・脊髄性筋萎縮症	0 人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	131 人	・球脊髄性筋萎縮症	0 人
・アミロイドーシス	15 人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	12 人
・後縦靭帯骨化症	64 人	・肥大型心筋症	7 人
・ハンチントン病	2 人	・拘束型心筋症	0 人
・モヤモヤ病(ウィリス動脈輪閉塞症)	40 人	・ミトコンドリア病	1 人
・ウェゲナー肉芽腫症	3 人	・リンパ管筋腫症(LAM)	2 人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	57 人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	1 人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガ症候群)	12 人	・黄色靭帯骨化症	2 人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	3 人	間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常 症、ADH分泌異常症、下垂体性TSH分泌異 常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能 低下症)	56 人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 地域歯科診療支援病院歯科初診料	・ 救急搬送患者地域連携紹介加算
・ 歯科外来診療環境体制加算	・ 呼吸ケアチーム加算
・ 歯科診療特別対応連携加算	・ 病棟薬剤業務実施加算
・ 特定機能病院入院基本料（7対1入院基本料）	・ データ提出加算
・ 臨床研修病院入院診療加算	・ 救命救急入院料 4
・ 救急医療管理加算	・ 新生児特定集中治療室管理料 1
・ 超急性期脳卒中加算	・ 小児入院医療管理料 4
・ 妊産婦緊急搬送入院加算	・
・ 診療録管理体制加算	・
・ 急性期看護補助体制加算	・
・ 看護補助加算 3	・
・ 療養環境加算	・
・ 重症者等療養環境特別加算	・
・ 無菌治療室管理加算 1	・
・ 重症皮膚潰瘍管理加算	・
・ 緩和ケア診療加算	・
・ がん診療連携拠点病院加算	・
・ 栄養サポートチーム加算	・
・ 医療安全対策加算 1	・
・ 感染防止対策加算 1（感染防止地域連携加算）	・
・ 患者サポート体制充実加算	・
・ 褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ ハイリスク妊婦管理加算	・
・ ハイリスク分娩管理加算	・
・ 退院調整加算	・
・ 新生児特定集中治療室退院調整加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 高度難聴指導管理料	・ 検体検査管理加算 (Ⅲ)
・ 糖尿病合併症管理料	・ 検体検査管理加算 (Ⅳ)
・ がん性疼痛緩和指導管理料	・ 遺伝カウンセリング加算
・ がん患者指導管理料 1	・ 心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
・ がん患者指導管理料 2	・ 植込型心電図検査
・ がん患者指導管理料 3	・ 胎児心エコー法
・ 外来緩和ケア管理料	・ ヘッドアップティルト試験
・ 移植後患者指導管理料	・ 人工膀胱
・ 糖尿病透析予防指導管理料	・ 皮下連続式グルコース測定
・ 外来リハビリテーション診療料	・ 長期継続頭蓋内脳波検査
・ 外来放射線照射診療料	・ 補聴器適合検査
・ 開放型病院共同指導料	・ ロービジョン検査判断料
・ 地域連携診療計画管理料	・ コンタクトレンズ検査料 1
・ ハイリスク妊産婦共同管理料 (Ⅰ)	・ 内服・点滴誘発試験
・ がん治療連携計画策定料	・ センチネルリンパ節生検 (乳がんに係るものに限る。)
・ がん治療連携管理料	・ C T透視下気管支鏡検査加算
・ 認知症専門診断管理料	・ 画像診断管理加算 1、2
・ 肝炎インターフェロン治療計画料	・ 遠隔画像診断
・ 薬剤管理指導料	・ ポジトロン断層撮影又はポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・ 医療機器安全管理料 1	・ CT撮影及びMRI撮影
・ 医療機器安全管理料 2	・ 冠動脈C T撮影加算
・ 歯科治療総合医療管理料	・ 外傷全身C T加算
・ 持続血糖測定器加算	・ 大腸C T撮影加算
・ 造血器腫瘍遺伝子検査	・ 心臓MR I 撮影加算
・ HPV核酸検出	・ 抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・ HPV核酸検出 (簡易ジェノタイプ判定)	・ 外来化学療法加算 1
・ 検体検査管理加算 (Ⅰ)	・ 無菌製剤処理料

・ 歯科口腔リハビリテーション料 2	・ 経皮的冠動脈形成術
・ 心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）	・ 経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）
・ 脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅱ）	・ 経皮的冠動脈ステント留置術
・ 運動器リハビリテーション料（Ⅰ）	・ 経皮的中隔心筋焼灼術
・ 呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）	・ ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・ 認知療法・認知行動療法	・ 植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術
・ 精神科ショートケア「小規模なもの」	・ 両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
・ 精神科デイケア「小規模なもの」	・ 植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極除去術（レーザーシースを用いるもの）
・ 抗精神病特定薬剤治療指導管理料（治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。）	・ 両室ペースメーキング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペースメーキング機能付き植込型除細動器交換術
・ 医療保護入院等診療料	・ 大動脈バルーンポンピング法（IABP法）
・ エタノールの局所注入（甲状腺に対するもの）	・ 補助人工心臓
・ エタノールの局所注入（副甲状腺に対するもの）	・ 経皮的大動脈遮断術
・ 透析液水質確保加算	・ ダメージコントロール手術
・ 一酸化窒素吸入療法	・ 腹腔鏡下肝切除術
・ う蝕歯無痛的窩洞形成加算	・ 生体部分肝移植術
・ 歯科技工加算	・ 同種死体肝移植術
・ 皮膚悪性腫瘍切除術（悪性黒色腫センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。）	・ 腹腔鏡下臍体尾部腫瘍切除術
・ 腫瘍脊椎骨全摘術	・ 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・ 脳刺激装置植込術（頭蓋内電極植込術を含む。）及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・ 腹腔鏡下小切開副腎摘出術 ・ 腹腔鏡下小切開腎部分切除術、腹腔鏡下小切開腎摘出術、腹腔鏡下小切開腎（尿管）悪性腫瘍手術
・ 羊膜移植術	・ 腎腫瘍凝固・焼灼術（冷凍凝固によるもの）
・ 緑内障手術（緑内障治療用インプラント挿入術（プレートのあるもの））	・ 同種死体腎移植術
・ 網膜再建術	・ 生体腎移植術
・ 人工内耳植込術	・ 膀胱水圧拡張術
・ 植込骨導補聴器の植え込み及び接合子付骨導端子又は骨導端子の交換	・ 腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・ 内視鏡下鼻・副鼻腔手術Ⅴ（拡大副鼻腔手術）	・ 人工尿道括約筋植込・置換術
・ 上顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。）（歯科診療に係るものに限る。）、下顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。）（歯科診療に係るものに限る。）	・ 腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術 ・ 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍術（子宮体がんに限る）
・ 乳がんセンチネルリンパ節加算 1、乳がんセンチネルリンパ節加算 2	・ 胎児胸腔・羊水腔シャント術
・ 人工乳房及び組織拡張器	・ 医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6（歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。）に掲げる手術

・ 輸血管理料Ⅱ	・
・ 貯血式自己血輸血管理体制加算	・
・ 自己生体組織接着剤作成術	・
・ 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	・
・ 内視鏡手術用支援機器加算	・
・ 歯周組織再生誘導手術	・
・ 手術時歯根面レーザー応用加算	・
・ 広範囲顎骨支持型装置埋入手術	・
・ 麻酔管理料（Ⅰ）	・
・ 麻酔管理料（Ⅱ）	・
・ 放射線治療専任加算	・
・ 外来放射線治療加算	・
・ 高エネルギー放射線治療	・
・ 強度変調放射線治療（IMRT）	・
・ 1回線量増加加算	・
・ 画像誘導放射線治療加算（IGRT）	・
・ 体外照射呼吸性移動対策加算	・
・ 定位放射線治療	・
・ 定位放射線治療呼吸移動対策加算	・
・ テレパソロジーによる術中迅速病理組織標本作製	・
・ テレパソロジーによる術中迅速細胞診	・
・ 病理診断管理加算2	・
・ クラウン・ブリッジ維持管理料	・
・ 歯科矯正診断料	・
・ 顎口腔機能診断料（顎変形症（顎離断等の手術を必要とするものに限る。）の手術前後における歯科矯正に係るもの）	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・ HDRA法又はCD-DST法による抗悪性腫瘍感受性試験	・
・ 先天性難聴の遺伝子診断	・
・ 腹腔鏡下子宮体がん根治手術	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

- (注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ② 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	1回 / 2ヶ月
剖 検 の 状 況	剖検症例数 17例 / 剖検率 5.5%

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
白血病幹細胞生成過程の統合オミクス解析	野阪 哲哉	大学院医学系研究科	¥1,500,000	補 委 日本学術振興会
セクレトームに基づくマラリア肝臓ステージの宿主寄生虫間相互作用の解明	油田 正夫	大学院医学系研究科	¥12,400,000	補 委 日本学術振興会
2光子励起顕微鏡を用いた大腸癌化及び癌、周囲間質応答の新規確証提示	楠 正人	大学院医学系研究科	¥400,000	補 委 日本学術振興会
中枢神経系機能性疾患における病態成熟過程の解析	岡田 元宏	大学院医学系研究科	¥2,700,000	補 委 日本学術振興会
二光子レーザー顕微鏡による生命現象の動画を用いた生命科学実感教材の開発	溝口 明	大学院医学系研究科	¥3,500,000	補 委 日本学術振興会
プロテオミクスによる酸化損傷蛋白質を指標としたパーキンソン病リスク評価法の開発	及川 伸二	大学院医学系研究科	¥4,900,000	補 委 日本学術振興会
分子遺伝子学を導入した運動器不安定症疫学調査	須藤 啓広	大学院医学系研究科	¥4,700,000	補 委 日本学術振興会
乳癌進展における微小環境シグナリングのリン酸化プロテオミクス解析と組織での可視化	吉田 利通	大学院医学系研究科	¥3,500,000	補 委 日本学術振興会
マイクロRNAを指標とする分子疫学と実験研究に基づく繊維・粒子状物質のリスク評価	平工 雄介	大学院医学系研究科	¥4,400,000	補 委 日本学術振興会
胎生期静脈化メカニズムを応用した静脈グラフト治療の実験的研究	武藤 紹士	大学院医学系研究科	¥7,000,000	補 委 日本学術振興会
生体内機能的T細胞の運命決定因子の解明とそのT細胞レセプター改変細胞療法への応用	池田 裕明	大学院医学系研究科	¥4,000,000	補 委 日本学術振興会
炎症関連発がんにおけるエピゲノム異常の機構解明とがん予防・治療への応用	村田 真理子	大学院医学系研究科	¥5,800,000	補 委 日本学術振興会
中国南部における上咽頭癌の早期診断法の開発とスクリーニングシステムの構築	村田 真理子	大学院医学系研究科	¥5,000,000	補 委 日本学術振興会
ヒト嗅細胞における嗅覚情報伝達機構の解明	小林 正佳	大学院医学系研究科	¥800,000	補 委 日本学術振興会
看護学生のコミュニケーション能力の向上を目指した継続的教育方法の検討	井村 香積	医学部	¥900,000	補 委 日本学術振興会
職場におけるいじめ、ハラスメント、自殺の予防法の開発	高木 二郎	大学院医学系研究科	¥700,000	補 委 日本学術振興会
途上国における食と生活習慣によるアルツハイマー病発症のリスク評価と予防法の構築	翠川 薫	大学院医学系研究科	¥1,000,000	補 委 日本学術振興会

末梢におけるFOX P 3陽性制御性T細胞への分化メカニズム解析とがん治療への応用	宮原 慶裕	大学院医学系研究科	¥800,000	補 委	日本学術振興会
新たな手法によるパラミクソウイルス媒介膜融合の分子機構の解析	鶴留 雅人	大学院医学系研究科	¥1,400,000	補 委	日本学術振興会
肥満による慢性炎症性病変の新規制御機構の解析	緒方 正人	大学院医学系研究科	¥1,300,000	補 委	日本学術振興会
地域医療再生のための卒前キャリアパス教育のあり方に関するプロスペクティブ研究	櫻井 洋至	大学院医学系研究科	¥500,000	補 委	日本学術振興会
フローサイトメトリーによる核酸代謝酵素欠損症診断法の基礎的検討	登 勉	大学院医学系研究科	¥1,100,000	補 委	日本学術振興会
BMP R 2 関連遺伝子改変マウスを用いた炎症性肺高血圧モデルの作成	澤田 博文	大学院医学系研究科	¥1,000,000	補 委	日本学術振興会
IL-10の局所誘導によるスギ花粉症及びアトピー性皮膚炎の治療	山中 恵一	大学院医学系研究科	¥1,000,000	補 委	日本学術振興会
3 Tesla DENSE MRIによる左室壁内心筋ストレインの定量的評価	佐久間 肇	大学院医学系研究科	¥1,200,000	補 委	日本学術振興会
進行肝細胞癌に対する、標準的肝動注化学療法の実効性に関する多施設共同研究	高木 治行	医学部	¥500,000	補 委	日本学術振興会
弱毒化ポリオウイルスを用いた悪性骨軟部腫瘍に対する画期的な細胞融解療法の開発	松峯 昭彦	大学院医学系研究科	¥700,000	補 委	日本学術振興会
人工呼吸器誘発肺傷害 (VILI) の硫化水素による治療	張 尔泉	大学院医学系研究科	¥900,000	補 委	日本学術振興会
トランスジェニックウサギを用いた錐体系網膜電図の新しい概念の確立	近藤 峰生	大学院医学系研究科	¥1,100,000	補 委	日本学術振興会
師長職の成長過程と成長過程に関与する経験の意味	後藤 姉奈	医学部	¥500,000	補 委	日本学術振興会
地域密着型クリニックを拠点とする運動器不安定症高齢者の運動支援プログラム開発	福録 恵子	医学部	¥1,000,000	補 委	日本学術振興会
ゼブラフィッシュにおける発達神経毒性を指標とした放射線影響評価	西村 有平	大学院医学系研究科	¥900,000	補 委	日本学術振興会
産科シミュレーターによる助産師学生への効果的な会陰保護技術トレーニング方法と評価	井関 敦子	医学部	¥500,000	補 委	日本学術振興会
エリオシトリンによるメタボリックシンドローム改善作用の網羅的メカニズム解析	島田 康人	大学院医学系研究科	¥900,000	補 委	日本学術振興会
インテグリン活性化制御の“乱れ”は免疫感受性を高めるか？	島岡 要	大学院医学系研究科	¥1,300,000	補 委	日本学術振興会
パーキンソン病の自動車運転能力を正しく評価し療養者と社会の安全を守る研究	成田 有吾	医学部	¥1,200,000	補 委	日本学術振興会

抗凝固療法のモニターと新しい抗血栓機序の解明	和田 英夫	大学院医学系研究科	¥1,200,000	補 委	日本学術振興会
高温暴露時の心臓への熱による直接的傷害の機序解明	那谷 雅之	大学院医学系研究科	¥1,300,000	補 委	日本学術振興会
加齢による肝疾患の病態制御の分子基盤の解明—特にSIRT1の機能解析—	白木 克哉	大学院医学系研究科	¥1,200,000	補 委	日本学術振興会
心臓線維化における、内皮間葉移行現象の分子機序の解明	岡本 隆二	大学院医学系研究科	¥1,300,000	補 委	日本学術振興会
RNA干渉を応用した慢性閉塞性疾患の新規治療戦略の開発	Gabazza Esteban	大学院医学系研究科	¥1,700,000	補 委	日本学術振興会
エピゲノム制御分子を介した白血病の分子病態の解明	小笠 良一	大学院医学系研究科	¥1,400,000	補 委	日本学術振興会
弱毒ポリオウイルスを用いた神経芽腫の新しい治療法の研究	豊田 秀実	大学院医学系研究科	¥1,100,000	補 委	日本学術振興会
花粉症皮膚炎の病態解明と抑制性細胞誘導による治療	水谷 仁	大学院医学系研究科	¥1,300,000	補 委	日本学術振興会
パニック障害における脳内ネットワーク障害と疾患発症要因についての統合的研究	谷井 久志	大学院医学系研究科	¥1,000,000	補 委	日本学術振興会
肝移植における肝炎ウイルス再発に対するテーラーメイド治療	白井 正信	大学院医学系研究科	¥700,000	補 委	日本学術振興会
癌胎児性抗原特異的キメラ抗原受容体導入T細胞による消化器癌治療法の開発	王 立楠	大学院医学系研究科	¥1,200,000	補 委	日本学術振興会
食道癌に同時発現している癌抗原分子間でのがんワクチン前後の免疫拡大とその意義	影山 慎一	大学院医学系研究科	¥1,200,000	補 委	日本学術振興会
肺高血圧における細胞外マトリックスの役割とその制御	新保 秀人	大学院医学系研究科	¥1,300,000	補 委	日本学術振興会
硫酸化ジェラン線維性素材を用いた生理活性コイルの開発研究	松島 聡	大学院医学系研究科	¥1,200,000	補 委	日本学術振興会
硫化水素による実験的肺高血圧治療と内因性硫化水素産生系の解析	丸山 一男	大学院医学系研究科	¥2,000,000	補 委	日本学術振興会
地域高齢者の防災対策を基盤とした地域防災力強化のためのシステム構築	磯和 勅子	医学部	¥1,400,000	補 委	日本学術振興会
アピコンプレクサ類原虫侵入ステージ形成の分子基盤の解明	金子 伊澄	大学院医学系研究科	¥1,400,000	補 委	日本学術振興会
MCP-1およびテネイシンCによる造血細胞由来癌関連線維芽細胞の動員と大腸癌進展	梶屋 正浩	大学院医学系研究科	¥1,500,000	補 委	日本学術振興会
非アルコール性脂肪性肝障害における組織リモデリング機構の共通基盤の解明	竹井 謙之	大学院医学系研究科	¥1,500,000	補 委	日本学術振興会

EUS-FNA検体を用いた、新たな膵癌集学的治療戦略	伊佐地 秀司	大学院医学系研究科	¥1,300,000	補 委	日本学術振興会
内皮細胞間ギャップ結合による血管新生の制御機構の解明	岡本 貴行	大学院医学系研究科	¥1,400,000	補 委	日本学術振興会
RNA干渉を応用した肺高血圧症の新时期治療戦略の開発	田口 修	大学院医学系研究科	¥1,500,000	補 委	日本学術振興会
リンパ球造血異常の解析からの骨髄増殖性腫瘍の病態解明へのアプローチ	片山 直之	大学院医学系研究科	¥1,500,000	補 委	日本学術振興会
インスリン様成長因子が神経芽腫細胞の生存・増殖に果たす役割の解明	駒田 美弘	大学院医学系研究科	¥1,700,000	補 委	日本学術振興会
臨床病期Cの進行肝癌に対するソラフェニブと肝動脈塞栓併用療法：多施設共同臨床試験	浦城 淳二	大学院医学系研究科	¥1,800,000	補 委	日本学術振興会
胃癌リンパ節転移特異性lncRNAの解明-胃癌外科的個別化治療を目指して-	大井 正貴	大学院医学系研究科	¥1,100,000	補 委	日本学術振興会
直腸癌術前化学放射線療法後の再発機序と宿主依存性因子の解明	三枝 晋	大学院医学系研究科	¥1,800,000	補 委	日本学術振興会
二光子励起顕微鏡を用いた敗血症マウス微小循環障害の生体内リアルタイムイメージング	小林 美奈子	大学院医学系研究科	¥2,000,000	補 委	日本学術振興会
光感受性物質アクリジンオレンジによる放射線治療効果増幅法の研究	松原 孝夫	大学院医学系研究科	¥2,100,000	補 委	日本学術振興会
悪性骨軟部腫瘍に対する新規温度反応性リポソームとラジオ波焼灼術との併用療法の検討	浅沼 邦洋	大学院医学系研究科	¥1,000,000	補 委	日本学術振興会
細胞競合により制御される前立腺癌間質リモデリングの解明	石井 健一郎	大学院医学系研究科	¥1,500,000	補 委	日本学術振興会
原発性線毛運動不全症の診断精度向上に関する研究	竹内 万彦	大学院医学系研究科	¥1,300,000	補 委	日本学術振興会
チーム医療を担う人材育成のための看護基礎教育プログラムの開発	林 智子	医学部	¥900,000	補 委	日本学術振興会
がん患者のアドバンス・ケア・プランニングがもたらす効果に関する研究	辻川 真弓	医学部	¥1,600,000	補 委	日本学術振興会
地域資源を活用した介護保険施設の福祉避難所機能強化を目指した防災システムの構築	北川 亜希子	医学部	¥800,000	補 委	日本学術振興会
在日ブラジル人妊産婦の心身の健康状態とその社会的意味づけ及び対処行動について	畑下 博世	医学部	¥2,000,000	補 委	日本学術振興会
看護系大学院生の論文作成のための統計学教育方法及び支援システムの検討	中野 正孝	医学部	¥500,000	補 委	日本学術振興会
疎水化多糖ナノゲルのイムノトランスポーター機能の機構解析と新規がん治療法への展開	原田 直純	大学院医学系研究科	¥1,200,000	補 委	日本学術振興会

プロテオーム・メタボローム解析を用いたALS発症機構の解明とバイオマーカーの探索	及川 伸二	大学院医学系研究科	¥600,000	補 委	日本学術振興会
時空特異的白血病幹細胞発生モデルと病態特性	野阪 哲哉	大学院医学系研究科	¥1,000,000	補 委	日本学術振興会
二光子レーザー顕微鏡を用いた炎症性腸疾患モデルの生体内消化管全層解析と病態解明	楠 正人	大学院医学系研究科	¥1,200,000	補 委	日本学術振興会
生体吸収性ステントを支持基盤とした新たな血管吻合法の開発	武藤 紹士	大学院医学系研究科	¥1,500,000	補 委	日本学術振興会
造血系疾患の治療を目指した歯髄、骨髄の神経堤及び中胚葉由来間葉の造血支持能の研究	山崎 英俊	大学院医学系研究科	¥1,000,000	補 委	日本学術振興会
個別化医療の時代に出現した新たな創薬ベンチャー・モデルに関する研究	西村 訓弘	大学院医学系研究科	¥1,300,000	補 委	日本学術振興会
電位依存性カリウムイオンチャネルによる神経活動依存的なシナプス形成機構の解明	木村 一志	大学院医学系研究科	¥1,500,000	補 委	日本学術振興会
新規腫瘍免疫寛容モデルの創成とヒト悪性腫瘍免疫治療機構	田中 利男	大学院医学系研究科	¥1,800,000	補 委	日本学術振興会
微小粒子状物質による炎症反応におけるエンドソーム・リソソームの役割の解明	平工 雄介	大学院医学系研究科	¥900,000	補 委	日本学術振興会
次世代型経鼻噴霧ワクチンベクターを用いた乳癌の転移抑制	河野 光雄	大学院医学系研究科	¥1,600,000	補 委	日本学術振興会
キメラ抗原受容体導入Th1/Th17を用いたT細胞輸注療法のパラダイムシフト	加藤 琢磨	大学院医学系研究科	¥1,400,000	補 委	日本学術振興会
自然発生腫瘍マウスにおける抑制性免疫動態に関する研究	瀬尾 尚宏	大学院医学系研究科	¥1,100,000	補 委	日本学術振興会
薬毒物動態学的アプローチによる合法ハーブの毒性解明	池村 真弓	大学院医学系研究科	¥1,100,000	補 委	日本学術振興会
サリドマイド投与による自閉症モデルラットの解析	大河原 剛	大学院医学系研究科	¥800,000	補 委	日本学術振興会
類洞内トロンビンレセプターの活性制御からみた脂肪肝手術適応拡大を目指した基礎研究	浜田 賢司	大学院医学系研究科	¥900,000	補 委	日本学術振興会
ストレス性内耳疾患の病態解明と臨床への応用	江藤 みちる (伊田みちる)	大学院医学系研究科	¥900,000	補 委	日本学術振興会
毛髪ミネラルとアトピー性皮膚炎との関連調査ー6年後の追跡ー	山田 知美	大学院医学系研究科	¥1,600,000	補 委	日本学術振興会
児童生徒における心臓性院外心停止の疫学像の解明と学校心電図検診の役割	大橋 啓之	医学部	¥1,800,000	補 委	日本学術振興会
ScFv化抗テネイシンC抗体による心疾患の分子標的イメージング診断法の確立	下條 尚志	医学部	¥1,100,000	補 委	日本学術振興会

チオレドキシンによる炎症性大腸発がん制御とその機構解明	鳥井 美江	大学院医学系研究科	¥1,700,000	補 委	日本学術振興会
新しい4次元CT血管造影を用いた脳動脈瘤破裂メカニズムの解明	梅田 靖之	大学院医学系研究科	¥1,300,000	補 委	日本学術振興会
外来通院中のがん患児のディフィシル感染予防に向けた教育プログラムの開発	村端 真由美	医学部	¥1,000,000	補 委	日本学術振興会
高齢者終末期ケアにおける多職種連携に対するケア専門職の認識と関連要因の検討	平松 万由子	医学部	¥500,000	補 委	日本学術振興会
従来型ワクチンを凌ぐ有効性を持つマイクロファージ指向型ワクチンの免疫誘導機構の解明	村岡 大輔	大学院医学系研究科	¥1,600,000	補 委	日本学術振興会
食餌性肥満ゼブラフィッシュを用いた糖代謝異常ゲノムメカニズムの解明研究	臧 黎清	医学部	¥1,400,000	補 委	日本学術振興会
回腸粘膜上皮細胞の遺伝子発現情報を用いた潰瘍性大腸炎術後回腸嚢炎予測法の開発	大北 喜基	医学部	¥1,800,000	補 委	日本学術振興会
肝虚血性再灌流障害（IRI）は脂肪肝成因によって異なるか？	藤井 武宏	大学院医学系研究科	¥1,400,000	補 委	日本学術振興会
軟骨再生における荷重負荷の影響について	西村 明展	大学院医学系研究科	¥1,800,000	補 委	日本学術振興会
末梢神経再生における骨代謝関連因子の検討	國分 直樹	大学院医学系研究科	¥2,500,000	補 委	日本学術振興会
口腔悪性腫瘍治療効果の向上を目的にしたBax mRNA導入遺伝子治療の開発	奥村 健哉	大学院医学系研究科	¥1,800,000	補 委	日本学術振興会
実践的看護技術力強化のためのシミュレーター開発と教育効果の検討	種田 ゆかり	医学部	¥1,500,000	補 委	日本学術振興会
認知神経科学的アプローチによる音楽の認知症予防・進行抑制作用の解明	田部井 賢一	大学院医学系研究科	¥1,000,000	補 委	日本学術振興会
血球細胞のp38経路を介した代謝と老化の制御機構	大隈 貞嗣	大学院医学系研究科	¥1,500,000	補 委	日本学術振興会
大腸癌肺転移に対する経皮的ラジオ波凝固療法と肺切除の無作為化臨床比較試験	山門 亨一郎	医学部附属病院	¥800,000	補 委	日本学術振興会
炎症性サイトカインによる尿細管薬物トランスポータの機能制御とその役割解明	奥田 真弘	医学部附属病院	¥1,000,000	補 委	日本学術振興会
肝臓に対するインクレチン作用機序の解明	藤田 尚己	医学部附属病院	¥1,100,000	補 委	日本学術振興会
小児急性リンパ性白血病の微小残存病変を用いた白血病幹細胞特性解析の試み	出口 隆生	医学部附属病院	¥1,200,000	補 委	日本学術振興会
胃癌腹膜播種形成に関与するエピジェネティック変化の分子機構と治療への応用	安田 裕美	医学部附属病院	¥1,000,000	補 委	日本学術振興会

小児難治性炎症性腸疾患の病態に関する二光子レーザー顕微鏡リアルタイムイメージング	内田 恵一	医学部附属病院	¥1,000,000	補 委	日本学術振興会
潰瘍性大腸炎関連性大腸癌に対する新しい早期診断法有効性の検討と確立に向けた研究	荒木 俊光	医学部附属病院	¥500,000	補 委	日本学術振興会
難治性副鼻腔炎におけるトランスフォーミング成長因子 α の役割と治療法の開発	石永 一	医学部附属病院	¥1,000,000	補 委	日本学術振興会
勃起不全治療薬ホスホジエステラーゼ5阻害剤は悪性黒色腫の分子標的となり得るか?	清水 香澄	医学部附属病院	¥1,100,000	補 委	日本学術振興会
白金系抗がん薬の過敏症発現機序に基づく再投与可能患者の選別法構築	岩本 卓也	医学部附属病院	¥1,000,000	補 委	日本学術振興会
糖尿病薬併用療法におけるファーマコゲノミクス検査の有用性の検討	中谷 中	医学部附属病院	¥1,200,000	補 委	日本学術振興会
遺伝子改変マウスを用いた肝線維化の発症機序の解明と新規治療法の開発	岩佐 元雄	医学部附属病院	¥1,100,000	補 委	日本学術振興会
網羅的ペプチドミクスによるNASHの病態解析と分子標的の探索	山本 憲彦	医学部附属病院	¥1,200,000	補 委	日本学術振興会
白血病微小環境（骨髄及び中枢神経系）におけるN-カドヘリン分子機構の解明	岩本 彰太郎	医学部附属病院	¥1,400,000	補 委	日本学術振興会
肺高血圧における癌類似の病変形成と退縮の分子細胞機序の解明：新規動物モデルの検討	三谷 義英	医学部附属病院	¥1,400,000	補 委	日本学術振興会
精神病症状を伴う気分障害の視床下部一下垂体系脆弱性と前頭葉ネットワークの障害	城山 隆	医学部附属病院	¥1,000,000	補 委	日本学術振興会
直腸癌に対する化学放射線療法の最適化～エピジェネティクスの導入による新展開～	井上 靖浩	医学部附属病院	¥1,100,000	補 委	日本学術振興会
エリスロポエチンによる虚血障害脊髄組織の再生	平野 弘嗣	医学部附属病院	¥700,000	補 委	日本学術振興会
肺虚血再灌流障害の発症機序－薬剤によるIPC現象の確立－	島本 亮	医学部附属病院	¥1,100,000	補 委	日本学術振興会
椎間板修復治療の臨床応用－生物学的修復治療の開発－	明田 浩司	医学部附属病院	¥1,100,000	補 委	日本学術振興会
炎症性サイトカイン抑制による骨肉腫肺転移の制御	若林 弘樹	医学部附属病院	¥1,200,000	補 委	日本学術振興会
冠動脈MRAにおける冠動脈狭窄のコンピュータ支援検出システムの構築と有用性の検証	中山 良平	医学部附属病院	¥1,600,000	補 委	日本学術振興会
RNAiを用いた難治性呼吸器疾患治療への創薬の研究	小林 哲	医学部附属病院	¥1,500,000	補 委	日本学術振興会
ヒトリンパ球系分化の包括的解析と骨髄リンパ球ニッチの役割の解明	大石 晃嗣	医学部附属病院	¥1,200,000	補 委	日本学術振興会

聴覚変化検出からみたうつ病の神経基盤	元村 英史	医学部附属病院	¥1,100,000	補 委	日本学術振興会
15-0 水PETを基準とした3テスラ心筋血流MRIの心筋血流量解析法の開発	石田 正樹	医学部附属病院	¥2,000,000	補 委	日本学術振興会
2管球CTを用いた心筋遅延造影と細胞外液分画の評価法の確立	北川 覚也	医学部附属病院	¥1,700,000	補 委	日本学術振興会
肝細胞癌に対するミリプラチン・リピオドール懸濁液動注後経皮的ラジオ波凝固療法	山中 隆嗣	医学部附属病院	¥1,500,000	補 委	日本学術振興会
二光子励起顕微鏡を用いた癌転移巣微小環境生体内可視化による薬物動態評価法の開発	田中 光司	医学部附属病院	¥2,000,000	補 委	日本学術振興会
膵癌撲滅に向けたテーラーメイド治療—化学放射線療法抵抗性・癌幹細胞に対する戦略—	水野 修吾	医学部附属病院	¥1,300,000	補 委	日本学術振興会
関節軟骨に対するテネイシンCの修復促進・変性抑制の分子機構解明と治療への応用	長谷川 正裕	医学部附属病院	¥1,400,000	補 委	日本学術振興会
Netsの概念に基づく2光子レーザー顕微鏡を用いた壊死性腸炎の病態解明と治療戦略	小池 勇樹	医学部附属病院	¥1,200,000	補 委	日本学術振興会
PDEの唾液タンパク質合成・分泌促進による新型インフルエンザの新治療方法開発	村田 琢	医学部附属病院	¥2,000,000	補 委	日本学術振興会
血管内感染症に対する全血マルチプレックスPCRによる細菌遺伝子診断に関する研究	田辺 正樹	医学部附属病院	¥1,100,000	補 委	日本学術振興会
脂肪肝による肝移植への挑戦—虚血再還流障害から移植を炎症と凝固を礎として	岸和田 昌之	医学部附属病院	¥600,000	補 委	日本学術振興会
日本人の医療面接における患者中心性、患者満足度、そして医師の満足度の関係の研究	北村 大	医学部附属病院	¥1,200,000	補 委	日本学術振興会
シェアストレスが胎児期静脈化決定因子に与える影響	横山 和人	医学部附属病院	¥700,000	補 委	日本学術振興会
肺高血圧血管病変形成におけるエピジェネティクス制御	淀谷 典子	医学部附属病院	¥1,700,000	補 委	日本学術振興会
音による搔破行動の解析法の開発と応用	尾本 陽一	医学部附属病院	¥1,300,000	補 委	日本学術振興会
血管壁リモデリング制御因子Noggin-Bの分子機能解析	近藤 ゆか	医学部附属病院	¥1,100,000	補 委	日本学術振興会
二光子レーザー顕微鏡リアルタイムイメージングによるクローン病への薬剤効果判定	井上 幹大	医学部附属病院	¥1,600,000	補 委	日本学術振興会
生体肝移植におけるmarginal donor graft適当拡大に関する研究	栗山 直久	医学部附属病院	¥1,300,000	補 委	日本学術振興会
マトリックス細胞蛋白に着目したくも膜下出血後早期脳損傷の病態解明	芝 真人	医学部附属病院	¥1,100,000	補 委	日本学術振興会

多光子レーザー顕微鏡を用いた吸入麻酔薬による神経細胞死の機序の解明と予防法の開発	田川 剛志	医学部附属病院	¥1,600,000	補 委	日本学術振興会
間質をターゲットとする去勢抵抗性前立腺癌新規治療戦略の探索	吉尾 裕子	医学部附属病院	¥1,300,000	補 委	日本学術振興会
プロテオミクスを用いた胆道閉鎖症の新規マーカーの探索	大竹 耕平	医学部附属病院	¥2,700,000	補 委	日本学術振興会
過疎地域等における急性心筋梗塞の急性期治療の体制整備に関する研究	伊藤 正明	医学系研究科	¥10,000,000	補 委	厚生労働省
わが国の妊婦死亡原因の主要疾患に関する研究	池田 智明	医学系研究科	¥11,500,000	補 委	厚生労働省
人工妊娠中絶の地域格差に関する研究	池田 智明	医学系研究科	¥4,550,000	補 委	厚生労働省
炎症性動脈瘤形成症候群の新規診断法の確立に関する研究	今中 恭子 (吉田 恭子)	医学系研究科	¥11,700,000	補 委	厚生労働省
WHOのチェックリストを用いた日本版「手術安全簡易評価システム」の開発と適応に関する研究	兼児 敏浩	医学部附属病院	¥5,200,000	補 委	厚生労働省
三重県南部に多発する家族性認知症-パーキンソン症候群 発症因子の探索と治療介入研究	小久保 康昌	地域イノベーション学研究科	¥6,480,000	補 委	厚生労働省
CHP/NY-ESO-1 ポリペプチドがんワクチンの術後食道癌症例を対象とした多施設共同前期第Ⅱ相臨床試験	珠玖 洋	医学系研究科	¥164,400,000	補 委	厚生労働省
妊娠中の化学物質による、子どもの行動・情動への影響評価に関する臨床的・基礎的・疫学的研究	成田 正明	医学系研究科	¥25,400,000	補 委	厚生労働省
全国を対象とした抗菌薬使用動向調査システムの構築および感染対策防止加算の評価	村木 優一	医学部附属病院	¥3,900,000	補 委	厚生労働省
がん幹細胞移植ゼブラフィッシュを用いたin vivoスクリーニング技術開発	島田康人	医学系研究科	¥800,000	補 委	独立行政法人科学技術振興機構
慢性心不全患者に対するAdaptive-Servo Ventilatorに関するランダム化比較試験 (SAVIOR-C)	伊藤正明	医学系研究科	¥107,692	補 委	公益財団法人パブリックヘルスリサーチセンター
先天性甲状腺機能低下症	駒田美弘	医学系研究科	¥9,933,000	補 委	三重県
先天性副腎過形成症	駒田美弘	医学系研究科	¥9,933,000	補 委	三重県
生活習慣病予防重点プロジェクト特定健診受診率向上事業	伊藤正明	医学系研究科	¥4,615,385	補 委	名張市
名張市において望まれる地域医療に関する調査研究事業	竹村洋典	医学系研究科	¥2,307,692	補 委	名張市
デジタルパソロジーのコンサルテーションへの応用	白石泰三	医学系研究科	¥725,000	補 委	独立行政法人国立がん研究センター

アクリジンオレンジを用いた切除縁宿手術、術中補助療法の標準化に向けての基盤的研究	松峯昭彦	医学系研究科	¥500,000	補 委	独立行政法人国立がん研究センター
抗原受容体改変細胞治療の開発	影山慎一	医学系研究科	¥500,000	補 委	独立行政法人国立がん研究センター
次世代型がん治療用ワクチンの抗原最適化デザイン技術の開発	原田直純	医学系研究科	¥2,300,000	補 委	独立行政法人科学技術振興機構
頸動脈ステント留置術後の再狭窄に対するシロスタゾールの効果に関する多施設共同無作為化比較試験（CAS-CARE）	鈴木秀謙	医学系研究科	¥252,000	補 委	公益財団法人先端医療振興財団
高齢化先進地域における地域包括ケアおよび高齢者の保健医療介護に関する研究	竹村洋典	医学系研究科	¥10,910,000	補 委	南伊勢町
非代償性心不全で入院し、体液貯留に対してトルバプタン治療を受けた患者に関する多施設共同前向きコホート研究（MT FUJI study）	伊藤正明	医学系研究科	¥63,000	補 委	公益財団法人先端医療振興財団
海馬神経回路形成と可塑性の発現における形態学的解析	溝口明	医学系研究科	¥8,000,000	補 委	独立行政法人科学技術振興機構
バイオナノトランスポーターを応用したがん免疫療法の研究開発	珠玖洋	医学系研究科	¥20,000,000	補 委	独立行政法人科学技術振興機構
日本人における大脳白質病変の老年症候群に及ぼす作用と危険因子の解明に関する研究 血管性認知症（皮質下性）の病態解析と診断補助ツールの作成	富本秀和	医学系研究科	¥1,500,000	補 委	独立行政法人国立長寿医療研究センター
血管性認知症の病態解明と診断法、予防・治療法の開発 皮質下血管性認知症の診断基準	富本秀和	医学系研究科	¥2,500,000	補 委	独立行政法人国立長寿医療研究センター
「効果的な複合免疫療法の確立」（T細胞養子免疫療法における投与T細胞と免疫効果の評価による治療戦略の構築）	池田裕明	医学系研究科	¥17,727,273	補 委	支出負担行為担当官文部科学省
平成25年度課題解決型医療機器等開発事業「自動化による術中高速組織診断のための新型免疫組織染色装置の開発」（④-1 試薬及びプロトコルの標準化の検討、④-2 試薬キットの開発）	西村訓弘	医学系研究科	¥2,116,892	補 委	公益財団法人あきた企業活性化センター
長鎖ペプチド抗原・アジュバント・デリバリーシステムの三位一体型次世代がんワクチン	宮原慶裕	医学系研究科	¥5,000,000	補 委	国立大学法人名古屋大学
次世代レトロウイルスベクターによる難治性造血器腫瘍に対するT細胞レセプター改変T細胞輸注療法	珠玖洋	医学系研究科	¥30,000,000	補 委	国立大学法人名古屋大学
乳房超音波画像診断における鑑別支援システムの構築と臨床応用への可能性の検証	中山良平	医学部附属病院	¥1,308,000	補 委	独立行政法人科学技術振興機構
乳房腫瘍病変のリアルタイム超音波診断支援システムの開発	中山良平	医学部附属病院	¥455,000	補 委	独立行政法人科学技術振興機構
平成25年度HIV感染者等保健福祉相談事業（エイズ中核拠点病院相談事業）	大石晃嗣	医学部附属病院	¥1,000,000	補 委	公益財団法人エイズ予防財団

分子基盤に基づく難治性リンパ系腫瘍の病態解明及び治療法の開発と標準的治療法確立のための多施設共同研究	山口素子	医学部附属病院	¥1,000,000	補 委	独立行政法人国立がん研究センター
小児がんのQOL向上を目指した分子中央診断の推進を基盤とする高度先駆的診断法開発及び心理社会的評価法 小児血液腫瘍マーカー中央診断の推進を基盤とするフローサイトメトリーによる高度先駆的診断法	出口隆生	医学部附属病院	¥2,800,000	補 委	独立行政法人国立成育医療研究センター

計 188

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- (注) 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- (注) 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印を付けた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Iwamoto T	Departments of Pharmacy, Mie University Graduate School of Medicine	Clinical application of drug delivery systems in cancer chemotherapy: review of the efficacy and side effects of approved drugs.	Biological and Pharmaceutical Bulletin 36(5):715-718 (2013)
2	Muraki Y	Departments of Pharmacy, Mie University Graduate School of Medicine	Nationwide surveillance of antimicrobial consumption and resistance to Pseudomonas aeruginosa isolates at 203 Japanese hospitals in 2010.	Infection 41(2): 415-423 (2013)
3	Ikemura K	Departments of Pharmacy, Mie University Graduate School of Medicine	Altered pharmacokinetics of cimetidine caused by down-regulation of renal rat organic cation transporter 2 (rOCT2) after liver ischemia-reperfusion injury.	Drug Metabolism and Pharmacokinetics 28(6): 504-509 (2013)
4	Kurata T	Departments of Pharmacy, Mie University Graduate School of Medicine	Characteristics of pemetrexed transport by renal basolateral organic anion transporter hOAT3	Drug Metabolism and Pharmacokinetics 29(2): 148-153 (2014)
5	Miyake T	Departments of Pharmacy, Mie University Graduate School of Medicine	Impact of closed-system drug transfer device on exposure of environment and healthcare provider to cyclophosphamide in Japanese hospital.	SpringerPlus 2(1):273 (2013)

6	Nakamura T	Departments of Orthopaedic Surgery, Mie University Graduate School of Medicine	The Combined use of the neutrophil-lymphocyte ratio and C-reactive protein level as prognostic predictors in adult patients with soft tissue sarcoma.	Journal of Surgical Oncology
7	Nakamura T	Departments of Orthopaedic Surgery, Mie University Graduate School of Medicine	Clinical significance of radiofrequency ablation and metastasectomy in elderly patinets with lung metastases from musculoskeletal sarcomas.	Journal of Cancer Research and Therapeutics
8	Nakamura T	Departments of Orthopaedic Surgery, Mie University Graduate School of Medicine	The clinical outcomes of extracorporeal irradiated and re-implanted cemented autologous bone graft of femoral diaphysis after tumor resection.	International Orthopaedics
9	Nakamura T	Departments of Orthopaedic Surgery, Mie University Graduate School of Medicine	Oncological outcome of patients with deeply located soft tissue sarcoma of the pelvis: a follow up study at minimum 5 years after diagnosis.	European Journal of Surgical Oncology
10	Nakamura T	Departments of Orthopaedic Surgery, Mie University Graduate School of Medicine	The relationship between pretreatment anaemia and survival in patients with adult soft tissue sarcoma.	Journal of Orthopaedic Science

11	Nakamura T	Departments of Orthopaedic Surgery, Mie University Graduate School of Medicine	Outcome of soft-tissue sarcoma patients who were alive and event-free more than five years after initial treatment.	Bone and Joint Journal
12	Nakamura T	Departments of Orthopaedic Surgery, Mie University Graduate School of Medicine	Role of high-sensitivity C-reactive protein in the differentiation of benign and malignant soft tissue tumors.	Anticancer Research
13	Kageyama S	Departments of Immuno-Gene Therapy and Cancer Vaccine, Mie University Graduate School of Medicine	Dose-dependent effects of NY-ESO-1 protein vaccine complexed with cholesteryl pullulan (CHP-NY-ESO-1) on immune responses and survival benefits of esophageal cancer patients	Translational Medicine 2013, 11:246
14	Iwasa M	Department of Gastroenterology and Hepatology, Mie University Graduate School of Medicine, Tsu, Japan	Nutrition therapy using a multidisciplinary team improves survival rates in patients with liver cirrhosis.	Nutrition 2013 Nov-Dec;29(11-12):1418-21.
15	Nisikawa K	Department of Nephro-Urologic Surgery and Andrology, Mie University Graduate School of Medicine, Tsu, Japan	Manserin as a novel histochemical neuroendocrine marker in prostate cancer.	Urologic Oncology

16	Iwamoto Y	Department of Nephro-Urologic Surgery and Andrology, Mie University Graduate School of Medicine, Tsu, Japan	Oral naftopidil suppresses human renal-cell carcinoma by inducing G(1) cell-cycle arrest in tumor and vascular endothelial cells.	Cancer prevention research
17	Kato M	Department of Nephro-Urologic Surgery and Andrology, Mie University Graduate School of Medicine, Tsu, Japan	Activation of FGF2-FGFR Signaling in the Castrated Mouse Prostate Stimulates the Proliferation of Basal Epithelial Cells.	Biology of reproduction
18	N Takagi	Department of Radiology, Mie University Graduate School of Medicine, Tsu, Japan	Renal cell carcinoma: radiofrequency ablation with a multiple-electrode switching system--a phase II clinical study.	Radiology
19	Nobuoka Y	Department of Surgery, Mie University Graduate School of Medicine, Tsu, Japan	Immune Response following Liver Transplantation Compared to Kidney Transplantation: Usefulness of Monitoring Peripheral Blood CD4+ Adenosine Triphosphate Activity and Cytochrome P450 3A5 Genotype Assay	Clinical and Developmental Immunology
20	Sasaki T	Department of Nephro-Urologic Surgery and Andrology, Mie University Graduate School of Medicine, Tsu, Japan	Urinary retention caused by a urethral cystine stone in a 10-month-old infant	Pediatric emergency care

21	Sasaki T	Department of Nephro-Urologic Surgery and Andrology, Mie University Graduate School of Medicine, Tsu, Japan	Ewing's sarcoma (ES)/primitive neuroectodermal tumor (PNET) arising from the adrenal gland : a case report and literature review	Tumori
22	Nisikawa K	Department of Nephro-Urologic Surgery and Andrology, Mie University Graduate School of Medicine, Tsu, Japan	Usefulness of monitoring cell-mediated immunity for predicting post-kidney transplantation viral infection	Transplantation proceedings
23	Katsurahara M	Department of Endoscopic Medicine, Mie University Graduate School of Medicine, Tsu, Mie, Japan.	Colonic xanthoma: a rare non-neoplastic polypoid lesion.	Endoscopy. 2014;46 Suppl 1 UCTN:E53. doi: 10.1055/s-0033-1359118. Epub 2014 Feb 12. PubMed PMID: 24523180.
24	Inoue H	Department of Gastroenterology and Hepatology, Mie University Graduate School of Medicine, Tsu, Mie, Japan.	Spontaneous fistulization of infected walled-off pancreatic necrosis into the duodenum and colon.	Dig Endosc. 2014 Mar;26(2):293. doi: 10.1111/den.12210. Epub 2013 Dec 4. PubMed PMID: 24303989.
25	Katsurahara M	Department of Endoscopic Medicine, Mie University Graduate School of Medicine, Tsu, Mie, Japan.	Duodenal metastasis from subcutaneous angiosarcoma of the head: rare cause of obscure gastrointestinal bleeding.	Dig Endosc. 2014 Mar;26(2):291. doi: 10.1111/den.12198. Epub 2013 Nov 13. PubMed PMID: 24219309.

26	Iwasa M	Department of Gastroenterology and Hepatology, Mie University Graduate School of Medicine, Tsu, Mie, Japan.	Nutrition therapy using a multidisciplinary team improves survival rates in patients with liver cirrhosis	Nutrition. 2013 Nov-Dec;29(11-12):1418-21. doi: 10.1016/j.nut.2013.05.016. PubMed PMID: 24103520.
27	Mifuji-Moroka R	Department of Gastroenterology and Hepatology, Mie University Graduate School of Medicine, Tsu, Mie, Japan.	Iron overload and glucose abnormalities in chronic hepatitis C virus infection: phlebotomy lowers risk of new-onset diabetes.	Hepatogastroenterology. 2013 Oct;60(127):1736-41. PubMed PMID: 24634944.
28	Kobayashi Y	Center for Physical and Mental Health, Mie University Graduate School of Medicine, Mie, Japan.	Education and Imaging. Hepatobiliary and pancreatic: Duodenal bleeding from a hepatic artery aneurysm.	J Gastroenterol Hepatol. 2013 Aug;28(8):1256. doi: 10.1111/jgh.12323. PubMed PMID: 23875636.
29	Iwasa M	Department of Gastroenterology and Hepatology, Mie University Graduate School of Medicine, Tsu, Mie, Japan.	Branched-Chain Amino Acid Supplementation Reduces Oxidative Stress and Prolongs Survival in Rats with Advanced Liver Cirrhosis	PLoS One. 2013 Jul 25;8(7):e70309. doi: 10.1371/journal.pone.0070309. Print 2013. PubMed PMID: 23936183; PubMed Central PMCID: PMC3723692.
30	Kobayashi MI	Department of Otorhinolaryngology, Head & Neck Surgery, Mie University Graduate School of Medicine,	Blockade of interleukin-6 receptor suppresses inflammatory reaction and facilitates functional recovery following olfactory system injury.	Neurosci Res. 2013 Jul;76(3):125-32.

31	Shah SA	Department of Otorhinolaryngology, Head & Neck Surgery, Mie University Graduate School of Medicine,	Effects of Interleukin-31 on MUC5AC Gene Expression in Nasal Allergic Inflammation.	Pharmacology. 2013;91(3-4):158-64.
32	Sakaida H	Department of Otorhinolaryngology, Head & Neck Surgery, Mie University Graduate School of Medicine,	Analysis of factors influencing sensitization of Japanese cedar pollen in asymptomatic subjects.	Auris Nasus Larynx. 2013 ;40(6):543-7
33	Ogawa T.	Department of Breast Surgery, Mie University Graduate School of Medicine,	Usefulness of breast-conserving surgery using the round block technique or modified round block technique in Japanese females.	Asian J Surg. 2014 Jan;37(1):8-14
34	Ogawa T.	Department of Breast Surgery, Mie University Graduate School of Medicine,	Goldilocks mastectomy for obese Japanese females with breast ptosis.	Asian J Surg. 2013 Aug 22
35	Ogawa T	Department of Breast Surgery, Mie University Graduate School of Medicine,	Abdominal advancement flap as oncoplastic breast conservation: report of seven cases and their cosmetic results.	J Breast Cancer. 2013 Jun;16(2):236-43

36	Kashikura Y	Department of Breast Surgery, Mie University Graduate School of Medicine,	Improved differential diagnosis of breast masses on ultrasonographic images with a computer-aided diagnosis scheme for determining histological classifications.	Acad Radiol. 2013 Apr;20(4):471-7
37	Yamashita M	Department of Breast Surgery, Mie University Graduate School of Medicine,	An uncommon case of T1b breast cancer with diabetic mastopathy in type II diabetes mellitus.	Breast Cancer. 2013 Jan;20(1):92-6
38	Kaneko T	Department of Patient Safety and infection Control, Mie University Graduate School of Medicine,	Postmortem Computed Tomography is an Informative Approach to Determining Inpatient Cause of Death but Two Factors Require Noting from the Viewpoint of Patient Safety	Journal of Healthcare Technology and Management 1: 1-9, 2013
39	H Iwata	Department of Hepatobiliary Pancreatic and Transplant Surgery, Mie University Graduate School of Medicine,	Negative Prognostic Impact of Renal Replacement Therapy in Adult Living-donor Liver Transplant Recipients: Preoperative Recipient Condition and Donor Factors	Transplantation Proceedings Volume 46, Issue 3, April 2014, Pages 716-720
40	Miyagi H	Department of Radiology, Mie University Graduate School of Medicine,	Quantitative assessment of myocardial strain with displacement encoding with stimulated echoes MRI in patients with coronary artery disease.	Int J Cardiovasc Imaging. 2013 Dec;29(8):1779-86

41	Yamashita Y	Department of Hematology and Oncology, Central Clinical Laboratories, and Transfusion Service, Mie University Hospital	Elevated plasma levels of soluble platelet glycoprotein VI (GPVI) in patients with thrombotic microangiopathy.	Thromb Res. 133(3):440-4, 2014.
42	Yamashita Y	Department of Hematology and Oncology, Molecular and Laboratory Medicine, Department of Cardiology, Department of Orthopedic Surgery, Department of Hepatobiliary Pancreatic and Transplant Surgery, Department of Obstetrics and Gynecology, and Department of Blood Transfusion, Mie University Graduate	Elevated fibrin-related markers in patients with malignant diseases frequently associated with disseminated intravascular coagulation and venous thromboembolism.	Intern Med. 53(5):413-9, 2014.
43	Ino K	Department of Hematology and Oncology, Mie University Graduate School of Medicine	Monocytes infiltrate the pancreas via the MCP-1/CCR2 pathway and differentiate into stellate cells.	PLoS One. 9(1):1-12, 2014.
44	Liu B	Department of Hematology and Oncology, Department of Cancer Vaccine, and Department of Microbiology and Molecular Genetics, Mie University Graduate School of Medicine, Department of Life Science, Tokyo University of Pharmacy and Life Sciences, and Center for Cell and Gene Therapy,	Manipulation of human early T lymphopoiesis by coculture on human bone marrow stromal cells: Potential utility for adoptive immunotherapy.	Exp Hematol. 41(4):367-76, 2013.
45	Suzuki K	Department of Hematology and Oncology, Mie University Graduate School of Medicine and Emergency and Critical Care Center, Mie University Hospital.	Oxaliplatin-induced acute thrombocytopenia: a case report and review of the literature.	Intern Med. 52(5):611-5, 2013.

46	Hidenori S	Department of Neurosurgery, Mie University Graduate School of Medicine	Effect of aneurysm treatment modalities on cerebral vasospasm after aneurysmal subarachnoid hemorrhage	Acta Neurochir Suppl
47	Hidenori S	Department of Neurosurgery, Mie University Graduate School of Medicine	Matricellular protein: a new player in cerebral vasospasm following subarachnoid hemorrhage	Acta Neurochir Suppl
48	Masato S	Department of Neurosurgery, Mie University Graduate School of Medicine	Role of platelet-derived growth factor in cerebral vasospasm after subarachnoid hemorrhage in rats	Acta Neurochir Suppl
49	Yoichi M	Department of Neurosurgery, Mie University Graduate School of Medicine	Low wall shear stress is independently associated with the rupture status of middle cerebral artery aneurysms	Stroke
50	Waro T	Department of Neurosurgery, Mie University Graduate School of Medicine	Importance of independently evaluated initial anatomic result after endovascular coiling for ruptured cerebral aneurysms	J Clin Neurosci

51	Masashi F	Department of Neurosurgery, Mie University Graduate School of Medicine	Tenascin-C induces prolonged constriction of cerebral arteries in rats	Neurobiol Dis
52	Masato S	Department of Neurosurgery, Mie University Graduate School of Medicine	Tenascin-C causes neuronal apoptosis after subarachnoid hemorrhage in rats	Transl Stroke Res
53	Niwa A	Department of Neurology, Mie University Graduate School of Medicine	Clinical and neuropathological findings in a patient with familial Alzheimer disease showing a mutation in the PSEN1 gene.	Neuropathology. 2013;33, 199-203.
54	Shindo A	Department of Neurology, Mie University Graduate School of Medicine	Chronic cerebral ischemia induces redistribution and abnormal phosphorylation of transactivation-responsive DNA-binding protein-43 in mice.	Brain Res. 2013;1533:131-140.
55	Tomimoto T	Department of Neurology, Mie University Graduate School of Medicine	Tomimoto H , Wakita H. Animal models of vascular dementia: translational potential at the present time and in 2050'.	Future Neurology. 2014;9(2):163-172

56	Morita H	Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Mie University Graduate School of Medicine	Characterization of phosphodiesterase 2A in human malignant melanoma PMP cells	Oncol Report
57	Yamaguchi S	Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Mie University Graduate School of Medicine	A Case of Old Calcifying Epithelioma Processed Symptomless over 40 Years	Case Report Dentistry
58	Nakamura S	Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Mie University Graduate School of Medicine	A case of carcinoma ex pleomorphic adenoma in the buccal mucosa: review of the literature	J Maxillofac Oral Surgery
59	Kato H	Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Mie University Graduate School of Medicine	A case of congenital granular cell epulis in the maxillary anterior ridge: a study of cell proliferation using immunohistological staining.	J Maxillofac Oral Surgery
60	Kondo E	Department of Obstetrics and Gynecology, Mie University School of Medicine, Tsu, Mie, Japan	Large or persistent lymphocyst increases the risk of lymphedema, lymphangitis, and deep vein thrombosis after retroperitoneal lymphadenectomy for gynecologic malignancy.	Arch Gynecol Obstet./288(3) 587-93/2013

61	Shiozaki T	Departments of Obstetrics and Gynecology, Mie University Graduate School of Medicine, Tsu, Mie, Japan	Association of CXC chemokine receptor type 4 expression and clinicopathologic features in human vulvar cancer.	Int J Gynecol Cancer/23(6) 1111-1117/2013
62	Murabayashi N	Department of Obstetrics and Gynaecology, Mie University Graduate School of Medicine, Mie, Japan	Maternal high-fat diets cause insulin resistance through inflammatory changes in fetal adipose tissue.	Eur J Obstet Gynecol Reprod Biol./169(1) 39-44/2013
63	Atsushi N	Department of Neuropathology, Mie University Graduate School of Medicine, Mie, Japan	Clinical and Neuropathological findings in a patient with familial Alzheimer disease showing a mutation in the PSEN1 gene	Neuropathology
64	Yoichi	Department of Neuropathology, Mie University Graduate School of Medicine, Mie, Japan	Oral Naftopidil Suppresses Human Renal-Cell Carcinoma by Inducing G1 Cell-Cycle Arrest in Tumor and Vascular Endothelial Cells	Cancer Preventon Research
65	Kato S	Department of Radiology, Mie University Graduate School of Medicine and Emergency and Critical Care Center, Mie University Hospital.	Detection of diminished response to cold pressor test in smokers: assessment using phase-contrast cine magnetic resonance imaging of the coronary sinus	Magn Resin Imaging

66	Yonezawa M	Department of Radiology, Mie University Graduate School of Medicine and Emergency and Critical Care Center, Mie University Hospital.	Quantitative Analysis of 1.5-T Whole-Heart Coronary MR Angiograms Obtained with 32-Channel Cardiac Coils: A Comparison with Conventional Quantitative Coronary Angiography	Radiology
67	Hujita M	Department of Radiology, Mie University Graduate School of Medicine and Emergency and Critical Care Center, Mie University Hospital.	Dose reduction in dynamic CT stress myocardial perfusion imaging: comparison of 80-kV/370-mAs and 100-kV/300-mAs protocols	Eur Radiol
68	Watanabe J	Department of Radiology, Mie University Graduate School of Medicine and Emergency and Critical Care Center, Mie University Hospital.	Model-based iterative reconstruction for multi-detector row CT assessment of the Adamkiewicz artery.	Radiology
69	Miyagi H	Department of Radiology, Mie University Graduate School of Medicine and Emergency and Critical Care Center, Mie University Hospital.	Quantitative assesment of myocardial strain with displacement encoding with stimulated echoes MRI in patients with coronary artery.	Int J Cardiovasc imaging
70	Ichikawa Y	Department of Radiology, Mie University Graduate School of Medicine and Emergency and Critical Care Center, Mie University Hospital.	CT of the chest with model-based, fully iterative reconstruction: comparison with adaptive statistical iterative reconstruction	BMC Med imaging

71	Yoon YE	Department of Radiology, Mie University Graduate School of Medicine and Emergency and Critical Care Center, Mie University Hospital.	Prognostic value of unrecognized myocardial infarction detected by late gadolinium-enhanced MRI in diabetic patients with normal global and regional left ventricular systolic function	Eur Radiol
72	Higashikawa T	Department of Radiology, Mie University Graduate School of Medicine and Emergency and Critical Care Center, Mie University Hospital.	Upside down use of Gore Excluder of Cook Zenith Legs	Cardiovasc Intervent Radiol
73	Yamakado K	Department of Radiology, Mie University Graduate School of Medicine and Emergency and Critical Care Center, Mie University Hospital.	Radiofrequency ablation for the treatment of recurrent bone and soft-tissue sarcomas in non-surgical candidates.	Int J Clin Oncol
74	Yamanaka T	Department of Radiology, Mie University Graduate School of Medicine and Emergency and Critical Care Center, Mie University Hospital.	Radiofrequency Ablation After Arterial Injection of Miriplatin-Iodized Oil Suspension Into Swine Liver: Ablative Zone Size and Tissue Platinum Concentration	Cardiovasc Intervent Radiol
75	Takagi H	Department of Radiology, Mie University Graduate School of Medicine and Emergency and Critical Care Center, Mie University Hospital.	Radiofrequency ablation versus radical nephrectomy: clinical outcomes for stage T1b renal cell carcinoma	Radiology

76	Hasegawa T	Department of Radiology, Mie University Graduate School of Medicine and Emergency and Critical Care Center, Mie University Hospital.	Experimental assessment of temperature influence on miriplatin and cisplatin iodized-oil suspension viscosity.	jpn J Radiol
77	Hujimori S	Department of Radiology, Mie University Graduate School of Medicine and Emergency and Critical Care Center, Mie University Hospital.	Survival with up to 10-year follow-up after combination therapy of chemoembolization and radiofrequency ablation for the treatment of hepatocellular carcinoma: single-center experience.	J Vasc interv Radiol
78	Hasegawa T	Department of Radiology, Mie University Graduate School of Medicine and Emergency and Critical Care Center, Mie University Hospital.	Hyaluronic acid gel injection to prevent thermal injury of adjacent gastrointestinal tract during percutaneous liver radiofrequency ablation	Cardiovasc Intervent Radiol
79	Yamanaka T	Department of Radiology, Mie University Graduate School of Medicine and Emergency and Critical Care Center, Mie University Hospital.	Radiofrequency ablation for liver metastasis from gastrointestinal stromal tumor	J Vasc interv Radiol
80	Yamakado K	Department of Radiology, Mie University Graduate School of Medicine and Emergency and Critical Care Center, Mie University Hospital.	Rid Fractures after radiofrequency and microwave ablation of lung tumors	Radiology

81	Kodama T	Department of Radiology, Mie University Graduate School of Medicine and Emergency and Critical Care Center, Mie University Hospital.	Impact of 18F-FDG-PET/CT on treatment strategy in colorectal cancer lung metastasis before lung radiofrequency ablation.	Nucl Med Commun
82	Takagi H	Department of Radiology, Mie University Graduate School of Medicine and Emergency and Critical Care Center, Mie University Hospital.	Frequency of and risk factors for complications after liver radiofrequency ablation under CT fluoroscopic guidance in 1500 sessions:single-center.	AJR Am J Roentgenol
83	Suzawa N	Department of Radiology, Mie University Graduate School of Medicine and Emergency and Critical Care Center, Mie University Hospital.	Detection of local tumor progression by (18)F-FDG PET/CT following lung radiofrequency ablation:PET versus CT	Clin Nucl Med
84	Takagi H	Department of Radiology, Mie University Graduate School of Medicine and Emergency and Critical Care Center, Mie University Hospital.	Renal cell carcinoma: radiofrequency ablation with a multiple-electrode switching system-aphase II clinical study	Radiology
85	Yamao Y	Department of Radiology, Mie University Graduate School of Medicine and Emergency and Critical Care Center, Mie University Hospital.	CT-fluoroscopy in chest interventional radiology: sliding scale of imaging parameters based on radiation exposure dose and factors increasing radiation exposure dose.	Clin Radiol

86	Takagi H	Department of Radiology, Mie University Graduate School of Medicine and Emergency and Critical Care Center, Mie University Hospital.	computed tomography fluoroscopy-guided radiofrequency ablation following intra-arterial iodized-oil injection for hepatocellular carcinomas invisible on ultrasinigraphic images.	int J Clin Oncol
87	Wang Z	Department of Spinal Surgery and Medical Engineering, Mie University Graduate School of Medicine and Emergency and Critical Care Center, Mie University Hospital.	A case of congenital absence of the lumbar facet joint associated with bilateral spondylolysis of the fifth lumbar vertebra	Neurologia Medico Chirurgica;53(2): 181-192, 2013
88	Wang Z	Department of Spinal Surgery and Medical Engineering, Mie University Graduate School of Medicine and Emergency and Critical Care Center, Mie University Hospital.	Porosity of β -Tricalcium phosphate affects the Results lumbar posterolateral Fusion	J Spinal Disord Tech 26(2):E40-5, 2013
89	Wang Z	Department of Spinal Surgery and Medical Engineering, Mie University Graduate School of Medicine and Emergency and Critical Care Center, Mie University Hospital.	Do the Position and Orientation of the Crosslink influence the stiffness of Spinal instrumentation?	J Spinal Disord Tech 2013 Oct27. [Epub ahead of print]
90	Sakakibara T	Department of Spinal Surgery and Medical Engineering, Mie University Graduate School of Medicine and Emergency and Critical Care Center, Mie University Hospital.	A Comparison of Chronic pain Prevalence in Japan, Thailand, and myanmar.	Pain Physician 16:603-608, 2013

91	Hirayama M	Department of Pediatrics, Mie University Graduate School of Medicine and Emergency and Critical Care Center, Mie University Hospital.	Simultaneous occurrence of gastric antalar vascular ectasia and protein-losing enteropathy in chronic graft-versus-host disease.	Int J Hematol
92	Toyoda H	Department of Pediatrics, Mie University Graduate School of Medicine and Emergency and Critical Care Center, Mie University Hospital.	Cord blood transplantation combined with rituximab for Wiskott-Aldrich syndrome with autoimmune thrombotic thrombocytopenic purpura.	J Allergy Clin Immunol
93	Hirayama M	Department of Pediatrics, Mie University Graduate School of Medicine and Emergency and Critical Care Center, Mie University Hospital.	A feasibility study on the prediction of acute graft-vs-host disease before hematopoietic stem cell transplantation based on fetomaternal tolerance	Chimerism
94	Hirayama M	Department of Pediatrics, Mie University Graduate School of Medicine and Emergency and Critical Care Center, Mie University Hospital.	High frequency CD29high intermediate monocytes correlates with the chronic graft-versus-host disease.	Eur J Haematol
95	Mitani Y	Department of Pediatrics, Mie University Graduate School of Medicine and Emergency and Critical Care Center, Mie University Hospital.	Public access defibrillation improved the outcome after out-of-hospital cardiac arrest in school-age children:a nationwide, population-based, Utstein registry study in Japan.	Europace

96	Toyoda H	Department of Pediatrics, Mie University Graduate School of Medicine and Emergency and Critical Care Center, Mie University Hospital.	Heterogeneity of neuroblastoma cell lines in insulin-like growth factor I receptor/Akt pathway-mediated cell proliferative responses.	Cancer Sei
97	Utizonno H	Department of Pediatrics, Mie University Graduate School of Medicine and Emergency and Critical Care Center, Mie University Hospital.	A cute cerebrrllitis following hemolytic streptococcal infection.	Pediatr Neurol
98	Sawada H	Department of Pediatrics, Mie University Graduate School of Medicine and Emergency and Critical Care Center, Mie University Hospital.	Reduced BMP2 expression induces GM-CSF translation and macrophage recruitment in humans and mice to exacerbate pulmonary hypertension.	J Exp Med
99	Mitani Y	Department of Pediatrics, Mie University Graduate School of Medicine and Emergency and Critical Care Center, Mie University Hospital.	Circumstance and outcomes of out-of-hospital cardiac arrest in elementary and middle school students in the era of public-access defibrillation.	Circ J
100	Habe K	Department of Dermatology, Mie University Graduate School of Medicine and Emergency and Critical Care Center, Mie University Hospital.	Two patients with antiphospholipid antibody developed disseminated intrazvascular coagulation	interbal Medicine 52:269-272;2013

101	Sugimoto K	Department of Dermatology, Mie University Graduate School of Medicine and Emergency and Critical Care Center, Mie University Hospital.	Serum protein isoform profiles indicate the progression of hepatitis C virus-induced liver diseases	Int J Mol Med 31(4)943-950;2013
102	Nojiri K	Department of Dermatology, Mie University Graduate School of Medicine and Emergency and Critical Care Center, Mie University Hospital.	Sorafenib and TRAIL have synergistic effect on hepatocellular carcinoma	International Journal of Oncology 42:101-108;2013
103	Habe K	Department of Dermatology, Mie University Graduate School of Medicine and Emergency and Critical Care Center, Mie University Hospital.	Presence of antiphospholipid antibody is a risk factor in thrombotic events in patients with antiphospholipid syndrome or relevant diseases	Int J Hematol 97:345-350;2013
104	Takahashi N	Department of Dermatology, Mie University Graduate School of Medicine and Emergency and Critical Care Center, Mie University Hospital.	Behavior of ADAMTS13 and Von Willebrand factor levels in patients after living donor liver transplantation	Thrombosis Research 131:225-229;2013
105	Sugawara Y	Department of Dermatology, Mie University Graduate School of Medicine and Emergency and Critical Care Center, Mie University Hospital.	Clinical utility of a panfungal polymerase chain reaction assay for invasive fungal diseases in patients with haematologic disorders.	European journal of Haematology 90:331-339;2013

106	Yamanaka K	Department of Dermatology, Mie University Graduate School of Medicine and Emergency and Critical Care Center, Mie University Hospital.	Continuous high-dose antigen exposure preferentially induces IL-10, but intermittent antigen exposure induces IL-4.	Exp Dermatol 2014 Jan;23(1):63-5 / doi:10.1111/exd.12295. PubMed PMID:24299227
107	Kitagawa H	Department of Dermatology, Mie University Graduate School of Medicine and Emergency and Critical Care Center, Mie University Hospital.	Intranasally Administered Antigen 85B Gene Vaccine in Non-Replicating Human Parainfluenza Type 2 Virus Vector Ameliorates Mouse Atopic Dermatitis	PLoS One .2013 Jul;8(7):e66614. doi:10.1371/journal.pone.0066614. Print 2013. PubMed PMID:23843958; PubMed Central PMCID:PMC3701015
108	Akeda T	Department of Dermatology, Mie University Graduate School of Medicine and Emergency and Critical Care Center, Mie University Hospital.	CD8+ T cell granzyme B activates keratinocyte endogenous IL-18.	Arch Dermatol Res. 2014 Mar;306(2):125-30. doi:10.1007/s00403-013-1382-1. Epub 2013 Jul 3. PubMed PMID:23820889
109	Iwashita Y	Emergency and Critical Care Center, Mie University Graduate School of Medicine, Tsu, Japan	Food poisoning associated with kudoa septempunctata	J Emerg Med 2013;44(5):943-5
110	Iwashita Y	Emergency and Critical Care Center, Mie University Graduate School of Medicine, Tsu, Japan	Arbekacin treatment of a patient infected with a pseudomonas putida producing a metallo-beta-lactamase	Journal of Intensive Care 2013;1:3

111	Iwashita Y	Emergency and Critical Care Center, Mie University Graduate School of Medicine, Tsu, Japan	A case of strongyloides hyperinfection associated with tuberculosis	Journal of intensive Care 2013;4:13
112	Kei Suzuki	Emergency and Critical Care Center, Mie University Graduate School of Medicine, Tsu, Japan	Transient extensive hepatic portal venous gas following hypotension in a dialysis patient	BMJ case report 2013. 04. 13
113	Kei Suzuki	Emergency and Critical Care Center, Mie University Graduate School of Medicine, Tsu, Japan	Septic arthritis subsequent to urosepsis caused by hypermucoviscous klebsiella pneumoniae	Internal medicine 2013. 07. 15
114	Kei Suzuki	Emergency and Critical Care Center, Mie University Graduate School of Medicine, Tsu, Japan	Alcoholic ketoacidosis that developed with a hypoglycemic attack after eating a high-fat meal.	Acute Medicine and Surgery 2013. 12. 16
115	Sugimoto M	Department of Ophthalmology, Mie University Graduate School of Medicine and Emergency and Critical Care Center, Mie University Hospital.	Inhibition of EGF signaling protects the diabetic retina from insulin-induced vascular leakage	The American Journal of Pathology 183(3);987-995. 2013

116	Matsui Y	Department of Ophthalmology, Mie University Graduate School of Medicine and Emergency and Critical Care Center, Mie University Hospital.	Peripheral capillary nonperfusion and full-field electroretinographic changes in eyes with frosted branch-like appearance retinal vasculitis	Clinical Ophthalmology 7:137-140, 2013
117	Kato K	Department of Ophthalmology, Mie University Graduate School of Medicine and Emergency and Critical Care Center, Mie University Hospital.	Histopathological examination of acanthamoeba sclerolceratitis	Clinical Ophthalmology 8:251-253, 2014

計 117

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- (注) 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- (注) 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- (注) 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。
- (注) 5 平成二十六年中業務報告において当該実績が七十件未満の場合には、平成二十六年の改正前の基準による実績についても報告すること。

(2) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Saigusa S, Ohi M, Imaoka H, Shimura T, Inoue Y, Kusunoki M.	Department of Gastrointestinal and Pediatric Surgery	Intussusception of rectosigmoid colon cancer mimicking a pedunculated tumor.	Case Rep Surg. 2014;2014:696403.

2	Saigusa S, Inoue Y, Tanaka K, Okugawa Y, Toiyama Y, Uchida K, Mohri Y, Kusunoki M.	Department of Gastrointestinal and Pediatric Surgery	Lack of M30 expression correlates with factors reflecting tumor progression in rectal cancer with preoperative chemoradiotherapy.	Mol Clin Oncol. 2014 Jan;2(1):99-104.
3	Saigusa S, Tanaka K, Mohri Y, Ohi M, Shimura T, Kitajima T, Kondo S, Okugawa Y, Toiyama Y, Inoue Y, Kusunoki M.	Department of Gastrointestinal and Pediatric Surgery	Clinical significance of RacGAP1 expression at the invasive front of gastric cancer.	Gastric Cancer. 2014 Mar 11.
4	Araki T, Okita Y, Fujikawa H, Ohi M, Tanaka K, Inoue Y, Uchida K, Mohri Y, Kusunoki M.	Department of Gastrointestinal and Pediatric Surgery	Redo Ileal pouch-anal anastomosis combined with anti-TNF- α maintenance therapy for Crohn's disease with pelvic fistula: report of two cases.	Surg Today. 2014 Jan 18.
5	Shimura T, Tanaka K, Toiyama Y, Okigami M, Ide S, Kitajima T, Kondo S, Saigusa S, Ohi M, Araki T, Inoue Y, Uchida K, Mohri Y, Mizoguchi A, Kusunoki M.	Department of Gastrointestinal and Pediatric Surgery	In vivo optical pathology of paclitaxel efficacy on the peritoneal metastatic xenograft model of gastric cancer using two-photon laser scanning microscopy.	Gastric Cancer. 2014 Jan 8.
6	Ohi M, Yasuda H, Ishino Y, Katsurahara M, Saigusa S, Tanaka K, Tanaka K, Mohri Y, Inoue Y, Uchida K, Kusunoki M.	Department of Gastrointestinal and Pediatric Surgery	Single-incision laparoscopic and endoscopic cooperative surgery for gastrointestinal stromal tumor arising from the duodenum.	Asian J Endosc Surg. 2013 Nov;6(4):307-10.

7	Toiyama Y, Inoue Y, Saigusa S, Kawamura M, Kawamoto A, Okugawa Y, Hiro J, Tanaka K, Mohri Y, Kusunoki M.	Department of Gastrointestinal and Pediatric Surgery	C-reactive protein as predictor of recurrence in patients with rectal cancer undergoing chemoradiotherapy followed by surgery.	Anticancer Res. 2013 Nov;33(11):5065- 74.
8	Hashimoto K, Saigusa S, Araki T, Tanaka K, Okita Y, Fujikawa H, Kawamura M, Okugawa Y, Toiyama Y, Inoue Y, Uchida K, Mohri Y, Kusunoki M	Department of Gastrointestinal and Pediatric Surgery	Correlation of CCL20 expression in rectal mucosa with the development of ulcerative colitis- associated neoplasia.	Oncol Lett. 2013 Nov;6(5):1271- 1276.
9	Inoue Y, Kawamoto A, Okigami M, Okugawa Y, Hiro J, Toiyama Y, Tanaka K, Uchida K, Mohri Y, Kusunoki M.	Department of Gastrointestinal and Pediatric Surgery	Multimodality therapy in fistula-associated perianal mucinous adenocarcinoma.	Am Surg. 2013 Sep;79(9):e286-8.
10	Hiro J, Inoue Y, Okugawa Y, Kawamoto A, Okita Y, Toiyama Y, Tanaka K, Uchida K, Mohri Y, Kusunoki M.	Department of Gastrointestinal and Pediatric Surgery	Single-port laparoscopic management of adhesive small bowel obstruction.	Surg Today. 2014 Mar;44(3):586-90.
11	Toiyama Y, Yasuda H, Saigusa S, Tanaka K, Inoue Y, Goel A, Kusunoki M.	Department of Gastrointestinal and Pediatric Surgery	Increased expression of Slug and Vimentin as novel predictive biomarkers for lymph node metastasis and poor prognosis in colorectal cancer.	Carcinogenesis. 2013 Nov;34(11):2548- 57.

12	Mohri Y, Tanaka K, Uchida K, Ohi M, Inoue M, Araki T, Inoue Y, Kusunoki M.	Department of Gastrointestinal and Pediatric Surgery	Oncologic outcome with use of sodium hyaluronate-carboxymethylcellulose barrier in gastric cancer.	Int Surg. 2013 Jul- Sep;98(3):271-6.
13	Okita Y, Araki T, Tanaka K, Hashimoto K, Kondo S, Kawamura M, Koike Y, Otake K, Fujikawa H, Inoue M, Ohi M, Inoue Y, Uchida K, Mohri Y, Kusunoki M.	Department of Gastrointestinal and Pediatric Surgery	Predictive factors for development of chronic pouchitis after ileal pouch-anal anastomosis in ulcerative colitis.	Digestion. 2013;88(2):101-9. doi: 10.1159/000353151 . Epub 2013 Aug 15.
14	Inoue M, Uchida K, Otake K, Nagano Y, Ide S, Hashimoto K, Matsushita K, Koike Y, Mohri Y, Kusunoki M.	Department of Gastrointestinal and Pediatric Surgery	Efficacy of Seprafilm for preventing adhesive bowel obstruction and cost-benefit analysis in pediatric patients undergoing laparotomy.	J Pediatr Surg. 2013 Jul;48(7):1528- 34.
15	Mohri Y, Inoue Y, Tanaka K, Hiro J, Uchida K, Kusunoki M.	Department of Gastrointestinal and Pediatric Surgery	Prognostic nutritional index predicts postoperative outcome in colorectal cancer.	World J Surg. 2013 Nov;37(11):2688- 92.
16	Araki T, Okita Y, Fujikawa H, Inoue Y, Mohri Y, Kusunoki M.	Department of Gastrointestinal and Pediatric Surgery	Full mucosal proctectomy initiated below the dentate line may prevent the development of a perianal fistula after ileal pouch-anal anastomosis for ulcerative colitis.	Dig Surg. 2013;30(3):219- 24.

17	Toiyama Y, Fujikawa H, Koike Y, Saigusa S, Inoue Y, Tanaka K, Mohri Y, Miki C, Kusunoki M.	Department of Gastrointestinal and Pediatric Surgery	Evaluation of preoperative C-reactive protein aids in predicting poor survival in patients with curative colorectal cancer with poor lymph node assessment.	Oncol Lett. 2013 Jun;5(6):1881- 1888.
18	Okugawa Y, Inoue Y, Tanaka K, Toiyama Y, Shimura T, Okigami M, Kawamoto A, Hiro J, Saigusa S, Mohri Y, Uchida K, Kusunoki M.	Department of Gastrointestinal and Pediatric Surgery	Loss of the metastasis suppressor gene KiSS1 is associated with lymph node metastasis and poor prognosis in human colorectal cancer.	Oncol Rep. 2013 Sep;30(3):1449- 54.
19	Koike Y, Uchida K, Inoue M, Ohtsu K, Tanaka T, Otake K, Tanaka K, Kusunoki M.	Department of Gastrointestinal and Pediatric Surgery	Hairy polyp can be lethal even when small in size.	Pediatr Int. 2013 Jun;55(3):373-6.
20	Saigusa S, Inoue Y, Tanaka K, Toiyama Y, Okugawa Y, Shimura T, Hiro J, Uchida K, Mohri Y, Kusunoki M.	Department of Gastrointestinal and Pediatric Surgery	Decreased expression of DUSP4 is associated with liver and lung metastases in colorectal cancer.	Med Oncol. 2013;30(3):620. doi: 10.1007/s12032- 013-0620-x. Epub 2013 Jun 8.
21	Koike Y, Uchida K, Nakazawa M, Inoue M, Kusunoki M, Tsukamoto Y.	Department of Gastrointestinal and Pediatric Surgery	Predictive factors of negative outcome in initial atropine therapy for infantile hypertrophic pyloric stenosis.	Pediatr Int. 2013 Oct;55(5):619-23.

22	Kitajima T, Inoue M, Uchida K, Otake K, Kusunoki M.	Department of Gastrointestinal and Pediatric Surgery	Scar endometriosis in a patient with bladder exstrophy.	Int Surg. 2013 Apr- Jun;98(2):145-8.
23	Tanaka K, Kawamura M, Otake K, Toiyama Y, Okugawa Y, Inoue Y, Uchida K, Araki T, Mohri Y, Kusunoki M.	Department of Gastrointestinal and Pediatric Surgery	Trehalose does not affect the functions of human neutrophils in vitro.	Surg Today. 2014 Feb;44(2):332-9.
24	Saigusa S, Araki T, Tanaka K, Hashimoto K, Okita Y, Fujikawa H, Okugawa Y, Toiyama Y, Inoue Y, Uchida K, Mohri Y, Kusunoki M.	Department of Gastrointestinal and Pediatric Surgery	Identification of patients with developing ulcerative colitis-associated neoplasia by nitrative DNA damage marker 8-nitroguanin expression in rectal mucosa.	J Clin Gastroenterol. 2013 Oct;47(9):e80-6.
25	Saigusa S, Ohi M, Inoue Y, Kusunoki M	Department of Gastrointestinal and Pediatric Surgery	Preoperative diagnosis by three-dimensional angiography of a leiomyosarcoma arising from the left ovarian vein.	BMJ Case Rep. 2013 Apr 16;2013.
26	Kobayashi M, Mohri Y, Ohi M, Inoue Y, Araki T, Okita Y, Kusunoki M.	Department of Gastrointestinal and Pediatric Surgery	Risk factors for anastomotic leakage and favorable antimicrobial treatment as empirical therapy for intra-abdominal infection in patients undergoing colorectal surgery.	Surg Today. 2014 Mar;44(3):487-93.

27	Inoue Y, Araki T, Okugawa Y, Kawamoto A, Hiro J, Toiyama Y, Tanaka K, Uchida K, Mohri Y, Kusunoki M.	Department of Gastrointestinal and Pediatric Surgery	Chemoradiotherapy followed by restorative proctocolectomy with partial intersphincteric resection for advanced rectal cancer associated with ulcerative colitis: report of a case.	Surg Today. 2014 Feb;44(2):387-90.
28	Araki T, Uchida K, Okita Y, Fujikawa H, Inoue M, Ohi M, Tanaka K, Inoue Y, Mohri Y, Kusunoki M.	Department of Gastrointestinal and Pediatric Surgery	The impact of postoperative infliximab maintenance therapy on preventing the surgical recurrence of Crohn's disease: a single-center paired case-control study.	Surg Today. 2014 Feb;44(2):291-6.
29	Yoshida K, Araki T, Uchida K, Okita Y, Fujikawa H, Inoue M, Tanaka K, Inoue Y, Mohri Y, Kusunoki M.	Department of Gastrointestinal and Pediatric Surgery	Sexual activity after ileal pouch-anal anastomosis in Japanese patients with ulcerative colitis.	Surg Today. 2014 Jan;44(1):73-9.
30	Okita Y, Mohri Y, Kobayashi M, Araki T, Tanaka K, Inoue Y, Uchida K, Yamakado K, Takeda K, Kusunoki M.	Department of Gastrointestinal and Pediatric Surgery	Factors influencing the outcome of image-guided percutaneous drainage of intra-abdominal abscess after gastrointestinal surgery.	Surg Today. 2013 Oct;43(10):1095-102.
31	Matsushita K, Uchida K, Saigusa S, Ide S, Hashimoto K, Koike Y, Otake K, Inoue M, Tanaka K, Kusunoki M.	Department of Gastrointestinal and Pediatric Surgery	Low NDRG1 mRNA expression predicts a poor prognosis in neuroblastoma patients.	Pediatr Surg Int. 2013 Apr;29(4):363-8.

32	Uchida K, Araki T, Kusunoki M.	Department of Gastrointestinal and Pediatric Surgery	History of and current issues affecting surgery for pediatric ulcerative colitis.	Surg Today. 2013 Nov;43(11):1219- 31.
33	Okugawa Y, Inoue Y, Tanaka K, Kawamura M, Saigusa S, Toiyama Y, Ohi M, Uchida K, Mohri Y, Kusunoki M.	Department of Gastrointestinal and Pediatric Surgery	Smad interacting protein 1 (SIP1) is associated with peritoneal carcinomatosis in intestinal type gastric cancer.	Clin Exp Metastasis. 2013 Apr;30(4):417-29.
34	Koike Y, Uchida K, Hashimoto K, Matsushita K, Otake K, Inoue M, Kusunoki M.	Department of Gastrointestinal and Pediatric Surgery	Primary liver transplantation for biliary atresia after percutaneous transhepatic cholangio-drainage.	J Pediatr Surg Case Reports. 2013 Jul;1(7):183-5.
35	Toiyama Y, Takahashi M, Hur K, Nagasaka T, Tanaka K, Inoue Y, Kusunoki M, Boland CR, Goel A.	Department of Gastrointestinal and Pediatric Surgery	Serum miR-21 as a Diagnostic and Prognostic Biomarker in Colorectal Cancer.	J Natl Cancer Inst. 2013 Jun 19;105(12):849- 59.
36	Toiyama Y, Boland CR, Goel A.	Department of Gastrointestinal and Pediatric Surgery	Response.	J Natl Cancer Inst. 2014 Mar;106(3)

37	Hur K, Toiyama Y, Takahashi M, Balaguer F, Nagasaka T, Koike J, Hemmi H, Koi M, Boland CR, Goel A.	Department of Gastrointestinal and Pediatric Surgery	MicroRNA-200c modulates epithelial-to-mesenchymal transition (EMT) in human colorectal cancer metastasis.	Gut. 2013 Sep;62(9):1315-26.
38	Kazushi Sugimoto	Department of Cardiology and Nephrology	Serum Protein Isoform Profiles Indicate the Progression of Hepatitis C Virus-induced Liver Diseases	Int J Mol Med 31: 943-950, 2013
39	Kondo M	Department of Ophthalmology,	Cord blood transplantation combined with rituximab for Wiskott-Aldrich syndrome with autoimmune thrombotic thrombocytopenic purpura	J Allergy Clin Immunol 132(1);226-7. 2013
40	Tomimoto T	Department of Neurosurgery,	Animal models of vascular dementia: translational potential at the present time and in 2050'.	Future Neurology. 2014;9(2):163-172
41	Nakamura T	Department of Oncology Orthopaedic Surgery	The relationship between pretreatment anaemia and survival in patients with adult soft tissuesarcoma.	J Orthop Sci. 2013 Nov;18(6):987-93.

42	Kondo M	Department of Ophthalmology,	Displacement of foveal area toward optic disc after macular hole surgery with internal limiting membrane peeling	Eye (Lond) 27(7):871-877, 2013
43	Kondo M	Department of Ophthalmology,	Degeneration of retinal ON bipolar cell induced by serum including autoantibody against TRPM1 in mouse model of paraneoplastic retinopathy	PLoS One 8(11):2013
44	Kondo M	Department of Ophthalmology,	Relationship between retinal layer thickness and focal macular electroretinogram components after epiretinal membrane surgery	Invest Ophthalmol Vis Sci. 54(12):7207-14. 2013
45	Kondo M	Department of Ophthalmology,	Whole genome sequencing in patients with retinitis pigmentosa reveals pathogenic DNA structural changes and NEK2 as a new disease gene	Proc Natl Acad Sci USA 110(40):16139-44. 2013
46	Kondo M	Department of Ophthalmology,	Focal cone ERGs of rhodopsin Pro347Leu transgenic rabbits	Vision Res 91:118-123, 2013

47	Kondo M	Department of Ophthalmology,	Functional endothelial progenitor cells selectively recruit neurovascular protective monocyte-derived F4/80+ /Ly6c+ macrophages in a mouse model of retinal degeneration	Stem Cells 31(10):2149-2161, 2013
48	Kondo M	Department of Ophthalmology,	Age-dependent alteration of intraocular soluble heparan sulfate levels and its implications for proliferative diabetic retinopathy	Mol vis 19:1125-1131, 2013
49	Kondo M	Department of Ophthalmology,	Clinical Phenotype in ten Unrelated Japanese patients with mutations in the EYS gene	Ophthalmic Genet 35(1):25-34, 2013
50	Kondo M	Department of Ophthalmology,	Autoantibodies to transient receptor potential cation channel, subfamily M, member 1 in a Japanese patient with melanoma-associated retinopathy	Jpn J Ophthalmol 58(2):166-171, 2014
51	Kondo M	Department of Ophthalmology,	Choroidal atrophy in a patient with paraneoplastic retinopathy and anti-TRPM1 antibody	Clinical ophthalmology:369-373, 2014

52	Kondo M	Department of Ophthalmology,	Transient increase of retinal nerve fiber layer thickness after macular hole surgery	Int Ophthalmol 34(3):575-581, 2014
53	Nishimura A	Department of Orthopaedic Surgery,	Osteoporosis, vertebral fractures and mortality in a Japanese rural community	Mod Rheumatol. 2013Dec 29.
54	Nishimura A	Department of Orthopaedic Surgery	Prevalence of hallux valgus and risk factors among Japanese community dwellers.	J Orthop Sci. 2014 Mar;19(2):257-62
55	Nakamura T	Department of Orthopaedic Surgery	The combined use of the neutrophil-lymphocyte ratio and C-reactive protein level as prognostic predictors in adult patients with soft tissue sarcoma.	J Surg Oncol. 2013 Dec;108(7):481-5
56	Wakabayashi H	Department of Orthopaedic Surgery	Polyarticular late infection of total joint arthroplasties in a patient with rheumatoid arthritis treated with anti-interleukin-6 therapy.	Rheumatology (Oxford). 2014 Jun;53(6):1150-1

57	Nishimura A	Department of Orthopaedic and Sports Medicine	Vascular safety during arthroscopic all-inside meniscus suture	Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. 2013 Nov 13.
58	Nakamura T	Department of Orthopaedic Surgery,	Clinical outcomes of Kyocera Modular Limb Salvage system after resection of bone sarcoma of the distal part of the femur: the Japanese Musculoskeletal Oncology Group study	Int Orthop. 2014 Apr;38(4):825-30.
59	Hasegawa M	Department of Orthopaedic Surgery,	The relationships among hemostatic markers, the withdrawal of fondaparinux due to a reduction in hemoglobin and deep vein thrombosis in Japanese patients undergoing major orthopedic surgery.	Clin Chim Acta. 2013 Oct 21;425:109-13
60	Asanuma Y	Department of Orthopedic Surgery	Extradural cryptococcoma at the sacral spine without bone involvement in an immunocompetent patient.	J Orthop Sci. 2013 May 28
61	Hasegawa M	Department of Orthopaedic Surgery	Prevalence of adverse reactions to metal debris following metal-on-metal THA	Orthopedics. 2013 May;36(5):e606-12.

62	Wakabayashi H	Department of Orthopaedic Surgery,	Hip score and disease activity correlation in patients with rheumatoid arthritis after total hip arthroplasty	Int Orthop. 2013 Jul;37(7):1245-50.
63	Hasegawa M	Department of Orthopaedic Surgery	In vivo wear performance of highly cross-linked polyethylene vs. yttria stabilized zirconia and alumina stabilized zirconia at a mean seven-year follow-up	BMC Musculoskelet Disord. 2013 May 1;14:154.
64	Hasegawa M	Department of Orthopaedic Surgery,	The efficacy of rebamipide add-on therapy in arthritic patients with COX-2 selective inhibitor-related gastrointestinal events: a prospective, randomized, open-label blinded-endpoint pilot study by the GLORIA study group.	Mod Rheumatol. 2013 Nov;23(6):1172-8.
65	Asanuma	Department of Orthopaedic Surgery	The thrombin inhibitor, argatroban, inhibits breast cancer metastasis to bone	Breast Cancer. 2013 Jul;20(3):241-6.
66	Naoki Fujimoto	Department of Cardiology and Nephrology	Hemodynamic Responses to Rapid Saline Loading the Impact of Age, Sex, and Heart Failure	Circulation 127: 55-62, 2013

67	Naoki Fujimoto	Department of Cardiology and Nephrology	Cardiovascular Effects of 1 Year of Alagebrium and Endurance Exercise Training in Healthy Older Individuals	J Am Coll Cardiol 62: 181-190, 2013
68	Ryuji Okamoto	Department of Cardiology and Nephrology	FHL2 Prevents Cardiac Hypertrophy in Mice with Cardiac-specific Deletion of ROCK2	FASEB J 27: 1439-1449, 2013
69	Kaoru Dohi	Department of Cardiology and Nephrology	Urine Osmolality-Guided Tolvaptan Therapy in Decompensated Heart Failure	Circ J 77: 313-314, 2013
70	Masahiko Tameda	Department of Cardiology and Nephrology	Des- γ -carboxy Prothrombin Ratio Measured by P-11 and P-16 Antibodies is a Novel Biomarker for Hepatocellular Carcinoma	Cancer Sci 104: 725-731, 2013
71	Naoki Fujimoto	Department of Cardiology and Nephrology	Effects of Sex and Hypertension Subtype on Haemodynamics and Left Ventricular Diastolic Function in Older Patients with Stage 1 Hypertension	J Hypertens 31: 2282-2289, 2013

72	Satoshi Fujita	Department of Cardiology and Nephrology	Identification of Bovine Hibernation-specific Protein Complex and Evidence of Its Regulation in Fasting and Aging	J Biochem 153: 453-461, 2013
73	Yamakado K	Department of Interventional Radiology	Radiofrequency ablation for the treatment of recurrent bone and soft-tissue sarcomas in non-surgical candidates	Int J Clin Oncol. 2013 Nov 28
74	Naoto Kumagai	Department of Cardiology and Nephrology	Improving Drug Adherence Using Fixed Combinations Caused Beneficial Treatment Outcomes and Decreased Health-Care Costs in Patients with Hypertension	Clin Exp Hypertens 35: 355-360, 2013
75	Jun Masuda	Department of Cardiology and Nephrology	Use of Corticosteroids in the Treatment of Cholesterol Crystal Embolism after Cardiac Catheterization: a Report of Four Japanese Cases	Intern Med 52: 993-998, 2013
76	Yuichi Sato	Department of Cardiology and Nephrology	Heart Failure Exacerbation Associated with Newly Developed Atrioventricular Dyssynchrony after Chemical Conversion to a Sinus Rhythm in a Patient Receiving Cardiac Resynchronization Therapy	Intern Med 52: 1359-1363, 2013

77	西川 晃平	腎泌尿器外科	伝子多型が移植後早期タクロリスム徐放製剤投与良に	24 (1) 14-
78	松尾 百華	中央検査部・オーダー メイド医療部	GENECUBE (R)を用いたQプローブ包によるIL28B遺伝 子SNP解析法の開発	JJCLA 38 (1) 142-145; 2013
79	岩下 義明	救命救急センター	クリオプレシピテート併用にて止血した多発性外傷	日本外傷学会雑誌 (2013): 2 7: 37-40
80	岩下 義明	救命救急センター	ICUのない病院における重症患者管理の実態調査	臨床救急医学学会 雑誌 (201 3) 16: 152
81	東 英一	小児科	造血細胞移植後の予防接種	造血細胞移植学会 ガイドライン第1 巻 (医薬ジャーナ ル社) P162-222

82	三谷 義英	小児科	特集 小児肺高血圧治療の最前線	小児科 Vol. 54No. 10, 1307-1317, 2013
83	三谷 義英	小児科	特集 第77回日本循環器学術集会：川崎病後遠隔期冠後遺症と成人の若年性旧性冠症候群：小児側の考え方	循環器専門医 Vol. 21, No2. 235-242. 2013. 9
84	三谷 義英	小児科	特集 川崎病後冠後遺症に対する診断と治療：小児期から成人期へ：遠隔期川崎病既往者における冠動脈病変と成人期の旧性冠症候群－小児循環器の立場から	日本冠循環学会雑誌 Vol. 19, No. 2, 179-183, 2013
85	三谷 義英	小児科	特集 川崎病の最近のトピックス：川崎病後の遠隔期に認められる冠動脈病変の特徴と成人期のACS合併の問題点	血管医学－ Vascular Biology & Medicine－ Vol, No3, 302-309, 2013
86	三谷 義英	小児科	特集 先天性心疾患および小児心身管医療の最前線：小児突然死実態と今後	循環器内科 Vol175, No1, 94-99, 2014, 1

87	三谷 義英	小児科	特集 小児循環器領域のup-to-date : 学校などの教育機関におけるAED導入と導入5の現状	小児科 Vol. 55No. 1, 39-43, 2014, 1
88	岩本 彰太郎	小児科	フローサイトメトリー法による小児急性白血病の微小残存病変の検出	医学のあゆみ 2 0 1 3 年 6 号
89	岩本 彰太郎	小児科	在宅利用を支える社会福祉制度	小児内科 Vol145(7):1341-1345, 2013
90	大橋 啓之	小児科	VIII) 先天性心疾患の5) は胃動脈弁狭窄の項で、肺動脈狭窄	循環器疾患 最新の治療2014-2015
91	杉本 昌彦	眼科	糖尿病黄斑浮腫に対するトリアムシノロンアセトニド製剤 (マキュエイド (R)) の硝子体内注射の効果	あたらしい眼科 3 0 (5) : 7 3 0 - 7 0 6, 2 0 1 3

92	宮田 良平	眼科	ピオグリタゾン塩酸塩製剤（アクトス（R））による糖尿病黄斑浮腫発症に関する因子	眼科臨床紀要 （8）：659－ 662、2013
93	杉本 昌彦	眼科	マキュエイド（R）剤型変更による粒子懸濁の安定化	あたらしい眼科3 0（10）：14 84－1487、 2013
94	近藤 峰生	眼科	鉄片が眼内に突入したまま1年間経過した病例の網膜機能と形態	眼科臨床紀要6 （4）：269－ 273、2013
95	近藤 峰生	眼科	LE-4000とPuRECにおける皮膚電極ERGの比較	眼科臨床紀要6 （6）：472－ 476、2013
96	生杉 謙吾	眼科	晩期房水漏出に対し遊離結膜弁移植を繰り返した1例	眼科手術 27 （1）：133－ 137、2014

97	山門 亨一郎	IVR科	三重大学でのNBCA使用の実態	臨床画像
98	石田 正樹	放射線診断科	血管内イメージングを最高するMRIにより血管内イメージングの臨床的有用性	呼吸と循環（医学書院）
99	山門 亨一郎	IVR科	非血管系IVRを極めるアブレーション；肝細胞癌に対するラジオ波凝固	臨床画像
100	山門 亨一郎	IVR科	冠動脈化学塞栓療法	日本内科学会雑誌
101	前田 正幸	放射線診断科	前頭側頭葉変性症－画像診断の役割＊	臨床画像

102	山門 亨一郎	IVR科	肝癌の凍結療法	臨床放射線
103	前田 正幸	放射線診断科	頭部MR angiography	画像診断
104	石永 一, 宮村 朋孝, 大津 和弥, 中村 哲, 竹内 万彦	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Transmanubrial osteomuscular sparing approachの変法を併用して摘出した甲状腺乳頭癌症例	頭頸部外科 23巻3号 Page425-429, 2014.
105	中村 哲, 石永 一, 大津 和弥, 宮村 朋孝, 竹内 万彦	耳鼻咽喉・頭頸部外科	胸鎖乳突筋内に生じた顆粒細胞腫例	頭頸部外科 23巻3号 Page415-418, 2014.
106	竹内 万彦, 亀井 裕介, 北野 雅子, 坂井田 寛, 石永 一	耳鼻咽喉・頭頸部外科	頭部外傷の7年後に髄膜炎、髄液耳漏を発症した側頭骨内髄膜脳瘤の一例	Otology Japan 23巻5号 Page868-872, 2013

107	石永 一, 濱口宣子, 鈴木 洋, 宮村 朋孝, 中村 哲, 大津 和弥, 竹内 万彦	耳鼻咽喉・頭頸部外科	術前に頸部リンパ節結核の合併が判明した甲状腺癌頸部リンパ節転移の1例	日本耳鼻咽喉科学会会報 116巻12号 Page1315-1319, 2013.
108	北野 雅子, 小林 正佳, 宮村 朋孝, 竹内 万彦	耳鼻咽喉・頭頸部外科	外傷性嗅覚障害の予後因子	日本味と匂学会誌 20巻3号 Page401-404, 2013
109	中村 哲, 大津 和弥, 石永 一, 宮村 朋孝, 竹内 万彦	耳鼻咽喉・頭頸部外科	頸部郭清術後リンパ漏の検討	頭頸部癌 39巻4号 Page500-503, 2013.
110	石永 一, 宮村 朋孝, 鈴木 洋, 大津 和弥, 中村 哲, 濱口 宣子, 竹内 万彦	耳鼻咽喉・頭頸部外科	縦隔気管孔を造設した喉頭摘出後の気管孔再発症例	頭頸部外科 23巻2号 Page225-229, 2013.
111	石永 一, 大津 和弥, 宮村 朋孝, 竹内 万彦	耳鼻咽喉・頭頸部外科	頭頸部外科手術における術後出血の検討	耳鼻咽喉科臨床 106巻9号 Page843-846, 2013.

112	北野 雅子, 竹内 万彦	耳鼻咽喉・頭頸部外科	ピアスによる耳介ケロイド例	耳鼻咽喉科臨床 106巻9号 Page783-789, 2013
113	石永 一, 中村 哲, 鶴飼 あゆみ, 坂 美由紀, 竹内 万彦	耳鼻咽喉・頭頸部外科	頭頸部扁平上皮癌・化学放射線療法における経管栄養についての検討	嚥下医学 2巻2号 Page234-239, 2013
114	竹内 万彦, 石永 一, 坂井田 寛, 北野 雅子	耳鼻咽喉・頭頸部外科	当科における中耳奇形の8症例	Otology Japan 23 巻2号 Page118-124, 2013.
115	田中光司、楠 正人.	消化管・小児外科学	Ⅲ章 消化器疾患 C 腸 12. 大腸ポリープ・ポリポシス.	消化器疾患 最新の治療 2013-2014 編集 菅野健太郎、上西紀夫、井廻道夫 榊南江堂 (東京) 220-223, 2013.
116	井上靖浩、田中光司、楠 正人.	消化管・小児外科学	特集 CRT時代の直腸癌手術—最善の戦略とは何か 適応、治療法と治療成績 下部進行直腸癌に対するCRT後の回復手術.	臨床外科 第68号 第3号 (株) 医学書院 (東京) 265-269, 2013

117	楠 正人.	消化管・小児外科学	総論 第13章 外科的感染症	標準外科学第13版 監修 加藤治文 編集 畠山勝義、 北野正剛、若林 剛 (株)医学書院 (東京) 151- 159, 2013.
118	内田恵一、荒木 俊光、楠 正 人.	消化管・小児外科学	V 腹部 小児炎症性腸疾患の手術.	スタンダード小児 外科手術 押さえ ておきたい手技の ポイント 監修 田口智章、岩中 督 編集 猪股裕 紀洋、黒田達夫、 奥山宏臣 (株) メジカルビュー社 (東京) 202- 205, 2013.
119	楠 正人、内田 恵一、荒木俊 光.	消化管・小児外科学	各論 IV 潰瘍性大腸炎 手術手技の実際 Overview: 潰瘍性大腸炎に対する手術法 (歴史と回腸 人工肛門, その他の人口肛門造設術) .	炎症性腸疾患の外 科治療 編集 佐々木 巖、杉田 昭、二見喜太郎 (株)メジカル ビュー社 (東京) 24-31, 2013.
120	大北喜基、荒木 俊光、楠 正 人.	消化管・小児外科学	各論 V クロウン病 合併症と周術期管理, 患者 ケア: 周術期管理の諸問題: 周術期管理方法に関する 多施設アンケート結果報告 Part I .	炎症性腸疾患の外 科治療 編集 佐々木 巖、杉田 昭、二見喜太郎 (株)メジカル ビュー社 (東京) 197-202, 2013.
121	荒木俊光、内田 恵一、楠 正 人.	消化管・小児外科学	各論 V クロウン病 合併症と周術期管理, 患者 ケア: 術後合併症への対策: 術後腸管麻痺, 感染症, その他.	炎症性腸疾患の外 科治療 編集 佐々木 巖、杉田 昭、二見喜太郎 (株)メジカル ビュー社 (東京) 209-212, 2013.

122	内田恵一、楠正人.	消化管・小児外科学	第Ⅲ部 各種疾患の治療と看護 消化器疾患：肛門疾患（痔核・痔瘻、肛門周囲膿腫）.	疾患・病状別 今日の治療と看護 改訂第3版（株）南江堂（東京）2013.
123	荒木俊光、大北喜基、藤川裕之、毛利靖彦、楠正人.	消化管・小児外科学	第2章潰瘍性大腸炎 4. 重症UCの地用選択 Case12 重症UCに対し手術を選択した症例.	症例から学ぶ炎症性腸疾患の治療戦略：IBD診療ケーススタディ 編集 日比紀文、久松理一、松岡克善 日本医事新報社（東京）193-200, 2013.
124	小林美奈子、楠正人.	消化管・小児外科学	各論 14. その他 ～重炭酸治療、深部静脈血栓予防、ストレス潰瘍予防～.	肺血症（セプシス）救命治療の最前線。 竹末芳生編（株）医薬ジャーナル社（東京、大阪）209-212, 2014.
125	内田恵一、廣純一郎、楠正人.	消化管・小児外科学	8章 消化器疾患各論 3. 小腸・大腸疾患 ③腸重積症	カラー版 消化器病学—基礎と臨床— 編集 浅香正博、菅野健太郎、千葉 勉 西村書店（東京）797-800, 2013.
126	小林美奈子、楠正人.	消化管・小児外科学	治療に伴う看護特集 がん患者の術後ドレーン・チューブ管理 7 結腸・直腸がん手術	プロフェッショナルがんナーシング 3(4):340-343, 2013.

127	毛利靖彦、田中光司、大井正貴、問山裕二、安田裕美、沖上正人、荒木俊光、井上靖浩、楠 正人.	消化管・小児外科学	特集1 胃癌肝転移に対する治療戦略 胃癌肝転移に対する肝切除、RFAの意義.	癌の臨床 59(5):515-522, 2013.
128	毛利靖彦、大井正貴、楠 正人.	消化管・小児外科学	特集 1 何が大事かがわかる 消化器外科術後の看護ポイント 2 胃がん手術後の看護・観察ポイント.	消化器外科NURSING 18(8):706-709, 2013.
129	荒木俊光、大井正貴、廣 純一郎、大北喜基、藤川裕之、大竹耕平、問山裕二、田中光司、井上靖浩、内田恵一、毛利靖彦、楠 正人.	消化管・小児外科学	特集 術前画像診断のポイントと術中解剖認識 Ⅲ. 小腸・虫垂・大腸 腸間膜異常.	臨床外科 (増刊号) 68(11):87-96, 2013.
130	毛利靖彦、田中光司、楠 正人.	消化管・小児外科学	Ⅱ 胃癌の疫学 胃癌の疫学—国際比較—.	最新胃癌学 (増刊号1) 72:47-53, 2014.
131	毛利靖彦、田中光司、毛利智美、楠 正人.	消化管・小児外科学	Ⅷ 胃癌の検査・診断 バイオマーカー プロテオミクス解析によるMIF、DJ-1.	最新胃癌学 (増刊号1) 72:338-342, 2014.

132	荒木俊光、大北喜基、藤川裕之、廣 純一郎、問山裕二、田中光司、井上靖浩、内田恵一、毛利靖彦、楠 正人。	消化管・小児外科学	特集 ディベート 炎症性腸疾患の外科治療 I. 潰瘍性大腸炎に対する外科治療 2. 回腸肛門吻合VS回腸囊肛門管吻合 a) 回腸肛門吻合.	外科 76 (3) : 240-244, 2014.
133	小池勇樹、内田恵一、井上幹大、井出正造、橋本 清、大竹耕平、楠 正人。	消化管・小児外科学	【特集 小児NST病態栄養シリーズ：中心静脈栄養法の諸問題】プロビオティックカテーテルの合併症.	小児外科 45(4):410-415, 2013.
134	内田恵一、廣 純一郎、井上幹大、大竹耕平、小池勇樹、藤川裕之、大北喜基、荒木俊光、毛利靖彦、楠 正人。	消化管・小児外科学	【特集 プロが見せる手術シリーズ(2)：難易度の高い消化管手術】腹腔鏡下大腸全摘・J型回腸囊肛門吻合術.	小児外科 45(8):864-870, 2013.
135	荒木俊光、大北喜基、藤川裕之、内田恵一、毛利靖彦、楠 正人。	消化管・小児外科学	【特集 クロウン病手術のすべて】クロウン病に対する狭窄形成術、機能的端端吻合術（器械吻合）.	手術 67(9):1253-1258, 2013.
136	井上幹大、内田恵一、松下航平、安田裕美、小池勇樹、大竹耕平、大井正貴、楠 正人。	消化管・小児外科学	【特集 プロが見せる手術シリーズ(3)：難易度の高い肝・胆・膵・脾・横隔膜手術】腹腔鏡下遊走脾固定術.	小児外科 45(11):1169-1172, 2013.

137	安田裕美、大井正貴、石野義人、田中光司、毛利靖彦、楠正人.	消化管・小児外科学	腹腔鏡下胃切除を行ったupside down stomachが併存した胃癌の1例.	日本臨床外科学会雑誌 74(12):3311-3315, 2013.
138	楠 正人.	消化管・小児外科学	第68回日本消化器外科学会総会ランチョンセミナー27「下部消化管周術期の諸問題」2013. 7. 18.	CCJapan 75:34-35, 2013.
139	問山 裕二, 奥川 喜永, 田中光司, 井上 靖浩, 毛利 靖彦, 楠 正人	消化管・小児外科学	【大腸がんの早期発見を目指して】 MicroRNAを用いた非侵襲的大腸癌診断の現状と展望(解説/特集)	日本消化器病学会雑誌 111巻3号 Page482-494(2014. 03)
140	井上靖浩、廣純一郎、問山裕二、楠 正人.	消化管・小児外科学	【専門医必須！消化器癌定型手術の標準手技アトラス】大腸癌 低位前方切除術.	手術 68(4):623-628, 2014.
141	毛利靖彦、川本文、小林美奈子、廣 純一郎、問山裕二、井上靖浩、楠正人.	消化管・小児外科学	特集 カラービジュアルで理解！ 大腸がん (colorectal cancer) .	消化器外科NURSING 18(12):1054-1061, 2013.

142	小林美奈子、毛利靖彦、大北喜基、大井正貴、楠 正人.	消化管・小児外科学	今からできる！ 抗菌薬の適正使用 Tips30 患者別、抗菌薬の適正使用③	INFECTION CONTROL 22(6):571-573, 2013.
143	荒木俊光、井上靖浩、大北喜基、藤川裕之、川本文、廣純一郎、問山裕二、小林美奈子、大井正貴、毛利靖彦、楠 正人.	消化管・小児外科学	【特集 炎症と大腸癌】潰瘍性大腸炎発癌の治療.	大腸癌FRONTIER 6(2):104-108, 2013-200, 2013.
144	井上靖浩、問山裕二、田中光司、毛利靖彦、楠 正人.	消化管・小児外科学	特集 直腸癌側方リンパ節転移のすべて 9. 局所進行直腸癌に対する分子標的薬の効果.	外科 75(13):1476-1481, 2013.
145	白石泰三	病理部	細胞診の遠隔診断	病理と臨床。臨増
146	田丸智巳、水野聡朗、小田裕靖、菅原由美子、齋藤佳菜子、山下芳樹、影山慎一、内田克典、今井裕、松岡信良、片山直之	病理部	スニチニブにて長期間 Stable Disease が得られた高分化型神経内分泌腫瘍の1例	癌と化学療法

147	白石泰三、金山和樹、米田 操	病理部	病理医（細胞診専門医）の立ち会うEUS-FNA	臨床病理
148	笠井裕一	大学院医学系研究科脊椎外科・医用工学	脊椎外科Q&A	THE SPINE perspectives 2013 10(4):7-10.
149	笠井裕一、榊原紀彦	大学院医学系研究科脊椎外科・医用工学	疼痛研究に関する私のトリビア 腰痛疾患を中心に	東海関節 2013 5:57-60.
150	笠井裕一、榊原紀彦	大学院医学系研究科脊椎外科・医用工学	運動器疾患の患者および疼痛を有する患者の性格特性	日本運動器疼痛学会誌 2013 5:38-42.
151	榊原紀彦、笠井裕一、紺野慎一、高橋和久、千葉一裕、福井充、宮本雅史、種市洋、加藤圭彦、金森昌彦、金山雅弘、細野昇、竹下克志、田中信弘、橋爪洋、松永俊二、川上守	大学院医学系研究科脊椎外科・医用工学	日本整形外科学会腰痛評価質問票（JOABPEQ）、日本整形外科学会頸髄症評価質問票（JOACMEQ）の認知度調査	Journal of Spine research 4(9):1388-1392, 2013

152	榑原紀彦、王卓、笠井裕一	大学院医学系研究科脊椎外科・医用工学	運動器慢性疼痛保有者の実態調査	中部日本整形外科 災害外科学会雑誌 56(3):669- 670, 2013
153	榑原紀彦、明田浩司、王卓、三枝ふみの、須藤啓広、笠井裕一	大学院医学系研究科脊椎外科・医用工学	新しく考案した脊椎固定法UPSS(Unilateral Pedicle and Spinous process System)の使用経験	Journal of Spine research 4(4):884-887, 2013
154	杉本 龍亮, 諸岡 留美	消化器・肝臓内科	にみられる鉄過剰の肝病態への関与と原因としてのhe	学生物学32巻 Page
155	堀木 紀行(三重大学 医学部光学医療診療部), 北出 卓, 葛原正樹, 十時 利明, 原田 哲郎, 田野 俊介, 山田 玲子, 濱田康彦, 井上 宏之, 竹井 謙之	光学医療診療部	【アレルギー性消化器疾患の実態】 アレルギー性紫斑病における内視鏡所見の検討	臨床免疫・アレルギー科(1881-1930)61巻1号 Page57-64(2014. 01)
156	杉本 龍亮(三重大学医学部附属病院 消化器・肝臓内科), 諸岡 留美, 宮地洋英, 田中 秀明, 山本 憲彦, 藤田 尚己, 小林 由直, 世古口 典子, 原 なぎさ, 岩田 加壽子, 岩佐 元雄, 竹井 謙之	消化器・肝臓内科	分岐鎖アミノ酸顆粒内服中の肝硬変患者に対する肝不全用経腸栄養剤就寝前追加投与の有用性	Frontiers in Gastroenterology(1342-1484)18巻3号 Page272-277(2013. 07)

157	大西 真裕(三重大学医学部附属病院 呼吸器内科), 小林 哲, 都丸 敦史, 高橋 佳紀, 藤原 研太郎, 浦和 昌史, 高木 健裕, 小林 裕康, ガバザ・エステバン, 田口 修	呼吸器内科	特徴的な画像経過を呈した乳癌の肺腫瘍塞栓の1例	日本呼吸器学会誌 (2186-5876) 3巻1号 Page142-147 (2014. 01)
158	大西 真裕(三重大学医学部附属病院 呼吸器内科), 小林 哲, 岡野 智仁, 都丸 敦史, 高橋 佳紀, 藤原 研太郎, 浦和 昌史, 高木 健裕, 小林 裕康, 油田 尚総, 吉田 正道, 田口 修	呼吸器内科	検診にて発見され、経気管支肺生検にて診断しえた肺類上皮血管内皮腫の1例	気管支学 (0287-2137) 35巻6号 Page632-636 (2013. 11)
159	高木 健裕(三重大学 医学部呼吸器内科), 都丸 敦史, 高橋 佳紀, 藤原 研太郎, 大西 真裕, 小林 哲, 小林 裕康, 田口 修	呼吸器内科	アミオダロンによる薬剤性肺炎との鑑別を要したIgG4関連疾患の一例	アレルギーの臨床 (0285-6379) 33巻11号 Page1037-1043 (2013. 10)
160	堀木 紀行(三重大学 医学部光学医療診療部), 十時 利明, 北出 卓, 葛原 正樹, 濱田 康彦, 田中 匡介, 荒木 俊光, 楠 正人, 竹井 謙之	光学医療診療部	【炎症性腸疾患の画像診断modality】 大腸内視鏡 拡大内視鏡	Intestine (1883-2342) 18巻2号 Page119-126 (2014. 03)
161	竹井 謙之(三重大学 大学院医学系研究科消化器内科学)	消化器・肝臓内科	アルコール性肝障害における断酒の効果 内科からみたアカンプロサートへの期待と医療連携について	Pharma Medica (0289-5803) 32巻3号 Page184-189 (2014. 03)

162	藤田 尚己(三重大学 大学院医学系研究科臨床医学系講座消化器内科学), 竹井 謙之	消化器・肝臓内科	【NAFLD/NASHと肝発癌-その実態と適切な診療に迫る-】 症例呈示 NASHに対し除鉄療法(瀉血+鉄制限食)が有効であった症例	消化器の臨床(1344-3070)17巻1号 Page76-81(2014. 02)
163	藤田 尚己(三重大学 大学院医学系研究科臨床医学系講座消化器内科学), 竹井 謙之	消化器・肝臓内科	【金属代謝と肝疾患】 鉄代謝障害とNASH	細胞(1346-7557)46巻1号 Page4-7(2014. 01)
164	竹井 謙之(三重大学 大学院医学系研究科消化器内科学), 池嶋 健一, 加藤 眞三, 藤田 尚己, 高瀬 幸次郎	消化器・肝臓内科	アルコール依存症と臓器障害 内科医からみた現状と展望	Frontiers in Alcoholism(2187-9613)2巻1号 Page8-22(2014. 01)
165	堀木 紀行(三重大学 医学部光学医療診療部), 大北 喜基, 荒木 俊光, 内田 恵一, 楠 正人, 竹井 謙之	光学医療診療部	【回盲部潰瘍性病変】 潰瘍性大腸炎による回盲部病変 虫垂開口部病変とbackwash ileitis	Intestine(1883-2342)17巻4号 Page373-380(2013. 07)
166	藤田 尚己(三重大学 大学院医学系研究科臨床医学系講座消化器内科学), 竹井 謙之	消化器・肝臓内科	【アルコール関連問題とその対策:進歩と展望】 アルコールに関連する健康障害の知見 最近の進歩と今後の展望 アルコール性肝障害	Progress in Medicine(0287-3648)33巻4号 Page833-839(2013. 04)

167	岩佐 元雄(三重大学 大学院医学系研究科臨床医学講座消化器内科学)	消化器・肝臓内科	【アルコールと栄養】 アルコール性臓器障害と栄養	Frontiers in Alcoholism(2187-9613)2巻1号 Page36-40(2014. 01)
168	小林 哲(三重大学医学部附属病院 呼吸器内科), 竹井 謙之	呼吸器内科	細胞生物学 RNA干渉を用いた治療開発	医学のあゆみ(0039-2359)245巻7号 Page599-600(2013. 05)
169	田口 修(三重大学医学部附属病院 呼吸器内科)	呼吸器内科	【呼吸器疾患-state of arts Ver.6】 (第4章)主要疾患 病態・診断・治療 全身性疾患の肺病変 悪性リンパ腫の肺病変	医学のあゆみ(0039-2359)別冊呼吸器疾患-state of arts Ver.6 Page429-431(2013. 04)
170	田口 修(三重大学医学部附属病院 呼吸器内科)	呼吸器内科	胸膜炎	今日の治療指針 2014年版、56, 326-327 (2014. 01)
171	稲垣 悠二(三重大学医学部附属病院 消化器肝臓内科), 井上 宏之, 野尻 圭一郎, 二宮 克仁, 田野 俊介, 山田 玲子, 濱田 康彦, 葛原 正樹, 堀木 紀行, 竹井 謙之, 櫻井 洋至, 伊佐地 秀司	消化器・肝臓内科 (1内)	嚢胞変性を伴った膵内分泌腫瘍の1症例	肝胆膵治療研究会誌(1348-737X)11巻1号 Page50-56(2013. 08)

172	山田 玲子(三重大学医学部附属病院 消化器肝臓内科), 井上宏之, 野尻 圭一郎, 二宮 克仁, 田野 俊介, 葛原 正樹, 濱田 康彦, 田中匡介, 堀木 紀行, 竹井 謙之	消化器・肝臓内科 (2内)	壊死性膵炎後walled-off necrosisに対する複合的治療	Gastroenterological Endoscopy (0387-1207) 56巻1号 Page58-63 (2014. 01)
173	田丸智己、水野聡朗、小田裕靖、菅原由美子、斎藤佳菜子、山下芳樹、影山慎一、内田克典、今井裕、松岡信良、片山直之	三重大学医学部附属病院血液・腫瘍内科、病理部、岡波総合病院内科	スニチニブにて長期間Stable Diseaseが得られた高分化型神経内分泌腫瘍の1例	癌と化学療法 40巻9号 Page 1237-1240
174	鈴木 圭、川本英嗣、横山和人、仲田智之、藤岡正紀、片山直之、今井 寛	三重大学大学院医学系研究科血液・腫瘍内科学、三重大学医学部附属病院救命救急センター	当院における門脈ガス血症8例の臨床的検討	日本救急医学会雑誌 24巻12号 Page 1013-1019
175	村林奈緒、佐川典正、池田智明	産科婦人科学教室	DOHaDと動物モデル	産科と婦人科/ 80 (5) 580-584
176	村林奈緒、池田智明	産科婦人科学教室	産婦人科当直医マニュアルー慌てないための虎の巻 III産科編 2周産期救急の初期対応 周産期心筋症	臨床婦人科産科 /67 (4) 160-161

177	池田智明	産科婦人科学教室	胎児心拍数モニタリング集中トレーニング	著書
178	村林奈緒、池田智明	産科婦人科学教室	CTGモニターで胎児機能不全を見落としていた！	ペリネイタルケア /32(7)20-23
179	平田徹、池田智明、須藤保、西村隆一郎	産科婦人科学教室	周産期の立場から考えるがん・生殖医療	がん・生殖医療 妊孕性温存の診療 /206-213
180	池田智明	産科婦人科学教室	妊娠分娩に関する基礎知識	妊娠分娩と脳卒中 The Mt.Fuji Workshop on CVD/ 31 1-6
181	池田智明	産科婦人科学教室	平成22年/平成23年日本産科婦人科学会による悉皆調査報告	妊娠分娩と脳卒中 The Mt.Fuji Workshop on CVD /31 104-107

182	池田智明、神元有紀	産科婦人科学教室	国内学会・研究会報告 第19回日本胎児心臓病学会学術集会	Fetal&Neonatal Medicine/5(2)51
183	田畑務	産科婦人科学教室	婦人科がんの血栓症対策 周術期の管理	婦人科産科 /67(11)1169-1173
184	池田智明、大里和広	産科婦人科学教室	心疾患合併妊娠	産科婦人科疾患最新の治療2013-2015 /92-93
185	鳥谷部 邦明、田中 浩彦、千田 時弘、伊藤 譲子、井澤 美穂、朝倉 徹夫、谷口 晴記、長尾 賢治、近藤 英司	産科婦人科学教室	卵巣明細胞境界悪性腫瘍に対し二期的に腹腔鏡下で基本術式(卵巣がん治療ガイドラインによる)相当の手技を施行した1例	日本産科婦人科内視鏡学会雑誌 /29(1)
186	鳥谷部 邦明、田中 浩彦、千田 時弘、伊藤 譲子、小林 良成、井澤 美穂、朝倉 徹、谷口 晴記	産科婦人科学教室	腹腔鏡下に治療した卵管成熟奇形腫の1例	日本産科婦人科内視鏡学会雑誌 /29(1)

187	池田智明、大里和弘	産科婦人科学教室	わが国の母体死亡の現状-母体安全の提言より-	臨床婦人科産科 /67(12)1264-1269
188	田畑務	産科婦人科学教室	細胞診・子宮体がん検診	プロメテウス婦人科がん 最新医療 ～産婦 人科の実際臨時増 刊号～ /1752- 1755
189	池田智明	産科婦人科学教室	母体安全への提言～妊産婦死亡の検討から～	分娩と麻酔 /95 1-7
190	池田智明、大里和弘	産科婦人科学教室	胎児附属物の異常による分娩障害	新体系看護学全書 母性看護学2 マタ ニティサイクルに おける母子の健康 と看護/138-157
191	大里和弘	産科婦人科学教室	胎児機能不全	今日の治療指針 2014/1196-1197

192	村林奈緒、池田智明	産科婦人科学教室	胎児心拍数モニタリング	ペリネイタルケア 産科の臨床検査 ディクショナリー /429 198-206
193	村林奈緒、池田智明	産科婦人科学教室	臍帯動脈血ガス	ペリネイタルケア 産科の臨床検査 ディクショナリー /429 224-226
194	村林奈緒、池田智明	産科婦人科学教室	Apgarスコア	ペリネイタルケア 産科の臨床検査 ディクショナリー /429 227-229
195	池田智明、杉山隆、前沢忠志	産科婦人科学教室	胎児心拍数モニタリング	新版助産師業務要 覧Ⅱ実践編 第2版 166-173
196	田畑 務	産科婦人科学教室	子宮体癌・卵巣癌におけるStaging Laparotomy -en bloc骨盤・傍大動脈リンパ節郭清術	著書

197	真木晋太郎、村林奈緒、河村卓弥、島田京子、武田真由子、道端肇、鳥谷部邦明、高山恵理奈、神元有紀、大里和広、奥川利治、田畑務、池田智明	産科婦人科学教室	胎児心拍を認めたがMTX治療が奏効した子宮頸管妊娠の1例	東海産科婦人科学会雑誌/50 85-89
198	神元有紀	産科婦人科学教室	わが国における脳性麻痺発生状況と産科医療補償制度	東海産科婦人科学会雑誌/50 1-7
199	渡邊純子、神元有紀、西岡美喜子、吉田健太、鈴木僚、高山恵理奈、村林奈緒、梅川孝、杉山隆、池田智明	産科婦人科学教室	妊娠9週に卵巣過剰刺激症群を発症した一例	東海産科婦人科学会雑誌/50 79-83
200	谷田耕治、田畑務、平田徹、本橋卓、奥川利治、池田智明	産科婦人科学教室	パクリタキセル+カルボプラチン療法が奏功した血液透析中の再発子宮体癌の一例	三重県産婦人科医報/32 117-121
201	西岡美喜子、前川有香、前田佳紀、日下秀人、前田眞	産科婦人科学教室	当院における妊娠高血圧症候群と胎児発育不全の臨床的検討-母体年齢と発症時期-	三重県産婦人科医報/32 123-128

202	本橋卓、田中浩彦、鳥谷部邦明、千田時弘、近藤英司、池田智明	産科婦人科学教室	腹腔鏡下に治療した卵管間質部妊娠の3例	三重県産婦人科医報/32 129-134
203	紀平力、前田佳紀、西岡美喜子、前川有香、日下秀人、前田眞	産科婦人科学教室	一絨毛膜二羊膜双胎症例における出生時体重差と臍帯付着部異常の関連性について	三重県産婦人科医報/32 135-140
204	小川朋子、花村典子、山下雅子、伊藤みのり、木村弘子、中村卓、柏倉由実、野原有起、野呂綾、稲上馨子	三重大学医学部附属病院 乳腺外科	両側上部領域乳癌に対し真皮脂肪乳腺弁を用いて乳房形成を行った1例	乳癌の臨床28巻4号 Page435-439(2013.08)
205	小川朋子、花村典子、山下雅子、伊藤みのり、木村弘子、中村卓、柏倉由実、野原有起、野呂綾、稲上馨子	三重大学医学部附属病院 乳腺外科	Modified round block techniqueとabdominal advancement flapを組み合わせたoncoplastic surgeryを施行した1例	乳癌の臨床28巻5号 Page535-540(2013.10)
206	木村弘子、小川朋子、山下雅子、花村典子、臼井正信、伊佐地秀司、今井裕	三重大学医学部附属病院 乳腺外科	7.5cmの単発肝転移を伴ったT1a乳癌の1例	乳癌の臨床28巻3号 Page337-343(2013.06)

207	稲上馨子、花村典子、山下雅子、木村弘子、柏倉由実、伊藤みのり、野原有起、三井貴子、前田菜美、落合三奈恵、田村文香、北山美香、今井裕、小塚祐司、小川朋子	三重大学医学部附属病院 乳腺外科	ステレオガイド下マンモトーム生検の検討 画像の診断精度と経過観察方針について	日本乳癌検診学会誌22巻2号 Page317-322(2013.07)
208	小川朋子、花村典子、山下雅子、伊藤みのり、木村弘子、中村卓、柏倉由実、野原有起、野呂綾、稲上馨子	三重大学医学部附属病院 乳腺外科	Recquet mammoplastyとabdominal advancement flapを組み合わせたoncoplastic surgery	乳癌の臨床28巻2号 Page207-212(2013.04)
209	佐藤正之	認知症センター	音楽療法の客観的治療効果—現状と課題—	日本音響学会誌 69(1): 24-27, 2013.
210	佐藤正之	認知症センター	デイサービス利用を拒否する患者さんに対する有効な対策を教えてください	治療特別編集：認知症でお困りですか？ 204-207, 2013.
211	佐藤正之	認知症センター	専門外やナースもできる認知症の見立て方	月間ナーシング 33(11): 21-25, 2013.

212	佐藤正之	認知症センター	科学的根拠のある音楽療法の広がりをめざして	週刊医学界新聞、 第3033号、p. 4. 2013.
213	佐藤正之、富本 秀和	認知症センター	皮質下血管性認知症	認知症ハンドブック、 pp. 788-796、 2013
214	佐藤正之	認知症センター	音楽療法	認知症ハンドブック、 pp. 278-282、 2013
215	田口智宏、家 研也。	総合診療科	診療所・小病院での学生・研修医指導を考える。第1 回「CBMEとは？」	日本プライマリ・ ケア連合学会誌
216	家 研也	総合診療科	診療所・小病院での学生・研修医指導を考える。第5 回「施設の軸-地域施設と大学の共生関係」	日本プライマリ・ ケア連合学会誌

217	田口智博、飛松正樹	総合診療科		コーチングの意図と構造～面談のコンテキストとGROWモデル～. In: 松尾理 編集. コーチングの基礎から応用へ.	学際企画, 26-29, 2013
218	田口智博	総合診療科		CBME (community-based medical education: 地域基盤型医学教育) 診療所・小病院での学生・研修医指導を考える(第1回)総論「CBMEとは?」	日本プライマリ・ケア連合学会誌 36(3), 242-245, 2013-09
219	吉本尚, 小松知己, 猪野亜郎	大学院医学系研究科 地域医療学講座	津	【物質使用障害とアディクション 臨床ハンドブック】(第II部)アルコール使用障害 アルコール問題に対する早期介入 アルコール使用障害へのSBIRT	精神科治療学
220	猪野亜郎, 高瀬幸次郎, 片岡千都子, 吉本尚	大学院医学系研究科 地域医療学講座	津	【物質使用障害とアディクション 臨床ハンドブック】(第II部)アルコール使用障害 アルコール問題に対する早期介入 救急外来(Emergency Room:ER)を受診するアルコール使用障害患者への支援	精神科治療学
221	吉本尚	大学院医学系研究科 地域医療学講座	津	【見逃してはいけない!アルコール関連問題】 知っておきたいアルコール問題への対応方法 SBIRT	JIM: Journal of Integrated Medicine

222	猪野垂郎, 吉本尚	大学院医学系研究科 地域医療学講座	津	・【見逃してはいけない!アルコール関連問題】 アル コール関連問題への対応のための多機関・多職種 の連携	JIM: Journal of Integrated Medicine
223	吉本尚, 村上克 介, 竹村洋典	大学院医学系研究科 地域医療学講座	津	害の少ない飲酒と危険な飲酒 : 共通教育「医学概 論」における、大学生のアルコールの害を減らすた めの授業に関する実践報告と考察、提言	大学教育研究 : 三 重大学授業研究交 流誌
224	猪野垂郎, 吉本 尚, 水谷直巳, 加藤尚久, 広藤 秀雄, 竹村洋典	大学院医学系研究科 地域医療学講座	津	アルコール専門外来と一般診療科外来受診者による救 急車利用の対比	日本アルコール・ 薬物医学会雑誌
225	関本美穂, 井伊 雅子	大学院医学系研究科 地域医療学講座	津	医師数, 医療機関数, 病床数, 患者数のバランスから評 価した医療資源の地域格差とその推移	0
226	竹村洋典	三重大学医学系研究科 家庭医療学		【ウデを磨く・アタマを鍛えるシリーズ 総合診療 科的アプローチ こうすればUP】 第1章アプローチ法 のいろいろ 総論	週刊日本医事新報 No. 4662 p6

227	北村 大	三重大学医学部附属病院 総合診療科	【ウデを磨く・アタマを鍛えるシリーズ 総合診療科的アプローチ こうすればUP】 第1章アプローチ法のいろいろ 個人へのアプローチ	週刊日本医事新報 No. 4662 p8
228	近藤諭, 吉本尚	大学院医学系研究科 津 地域医療学講座	【ウデを磨く・アタマを鍛えるシリーズ 総合診療科的アプローチ こうすればUP】 第1章アプローチ法のいろいろ 家族へのアプローチ	週刊日本医事新報 No. 4662 p12
229	高村昭輝	大学院医学系研究科 伊 賀地域医療学	【ウデを磨く・アタマを鍛えるシリーズ 総合診療科的アプローチ こうすればUP】 第1章アプローチ法のいろいろ 小児・思春期へのアプローチ	週刊日本医事新報 No. 4662 p19
230	岩佐紘・田口智博	三重大学医学部附属病院 総合診療科	【ウデを磨く・アタマを鍛えるシリーズ 総合診療科的アプローチ こうすればUP】 第1章アプローチ法のいろいろ ヘルスメンテナンス	週刊日本医事新報 No. 4662 p23
231	御前秀和	大学院医学系研究科 伊 賀地域医療学	【ウデを磨く・アタマを鍛えるシリーズ 総合診療科的アプローチ こうすればUP】 第1章アプローチ法のいろいろ 高齢者へのアプローチ (CGA)	週刊日本医事新報 No. 4662 p27

232	家研也	三重大学医学部附属病院 総合診療科	【ウデを磨く・アタマを鍛えるシリーズ 総合診療科的アプローチ こうすればUP】 第1章アプローチ法のいろいろ 女性へのアプローチ	週刊日本医事新報 No. 4662 p31
233	吉本尚	大学院医学系研究科 津 地域医療学講座	【ウデを磨く・アタマを鍛えるシリーズ 総合診療科的アプローチ こうすればUP】 第1章アプローチ法のいろいろ 予防と行動変容	週刊日本医事新報 No. 4662 p41
234	田口智博	三重大学医学部附属病院 総合診療科	【ウデを磨く・アタマを鍛えるシリーズ 総合診療科的アプローチ こうすればUP】 第1章アプローチ法のいろいろ 臨床倫理	週刊日本医事新報 No. 4662 p49
235	江角悠太・北村大	三重大学医学部附属病院 総合診療科	【ウデを磨く・アタマを鍛えるシリーズ 総合診療科的アプローチ こうすればUP】 第2章アプローチのポイント～Tips集 かぜ症候群患者の場合	週刊日本医事新報 No. 4662 p54
236	鶴田真三・山本政和	三重大学・亀山地域医療学	【ウデを磨く・アタマを鍛えるシリーズ 総合診療科的アプローチ こうすればUP】 第2章アプローチのポイント～Tips集 高血圧患者の場合	週刊日本医事新報 No. 4662 p62

237	竹田啓・北村大	三重大学医学部附属病院 総合診療科	【ウデを磨く・アタマを鍛えるシリーズ 総合診療科的アプローチ こうすればUP】 第2章アプローチのポイント～Tips集 脂質異常症患者の場合	週刊日本医事新報 No. 4662 p70
238	和田健治・小嶋秀治	大学院医学系研究科 津 地域医療学講座	【ウデを磨く・アタマを鍛えるシリーズ 総合診療科的アプローチ こうすればUP】 第2章アプローチのポイント～Tips集 気管支喘息患者の場合	週刊日本医事新報 No. 4662 p74
239	高村昭輝	大学院医学系研究科 伊 賀地域医療学	【ウデを磨く・アタマを鍛えるシリーズ 総合診療科的アプローチ こうすればUP】 第2章アプローチのポイント～Tips集 小児のかぜ症候群	週刊日本医事新報 No. 4662 p87
240	家研也	三重大学医学部附属病院 総合診療科	【ウデを磨く・アタマを鍛えるシリーズ 総合診療科的アプローチ こうすればUP】 第2章アプローチのポイント～Tips集 更年期障害患者の場合	週刊日本医事新報 No. 4662 p91
241	北村大・鳥谷部真実	三重大学医学部附属病院 総合診療科	【ウデを磨く・アタマを鍛えるシリーズ 総合診療科的アプローチ こうすればUP】 第2章アプローチのポイント～Tips集 うつ病患者の場合	週刊日本医事新報 No. 4662 p102

242	山本政和	三重大学・亀山地域医療学	【ウデを磨く・アタマを鍛えるシリーズ 総合診療科的アプローチ こうすればUP】 第2章アプローチのポイント～Tips集 認知症患者の場合	週刊日本医事新報 No. 4662 p106
-----	------	--------------	--	---------------------------

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するもの

(注) 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

(注) 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 臨床研究の審査、倫理審査委員会の組織及び運営、臨床研究の実施、重篤な有害事象及び不都合等の報告、研究経過及び結果の報告、臨床研究に関する教育、利益相反に関すること、厚生労働大臣等への報告事項、自己点検、厚生労働大臣等の調査への協力、臨床研究等の公開	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 12 回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

(注) 2 「③倫理審査委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとすること）。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 ・ 臨床研究に係わる利益相反行為に関するマネジメントの方針及び方法の原案の作成 ・ 臨床研究に係わる利益相反行為者への改善措置に関する勧告又は指示の原案の作成 ・ 臨床研究に係わる利益相反行為に関するマネジメントのための調査の実施及びその結果の分析 ・ 情報公開のための原案の作成	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 6 回

(注) 「③利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとすること）。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 3 回
・ 研修の主な内容 ヒトゲノム・遺伝子解析研究倫理指針に関する研修会、臨床研究倫理指針及び治験に関する研修会	

(注) 「①臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において実施実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとすること）。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

MMC 総合内科後期研修プログラム、血液内科専門医取得コース、糖尿病専門医取得コース、内分泌・代謝専門医取得コース、肥満症専門医取得コース、神経内科後期研修プログラム、外科専門医取得コース、消化器外科専門医コース、内視鏡外科専門医コース、肝胆膵外科専門医コース、移植外科専門医コース、炎症性腸疾患外科治療教育コース、腫瘍外科医を目指した大腸がん集学的治療コース、消化器腹腔鏡外科治療教育コース、三重大学呼吸器外科専門医コース、整形外科後期研修プログラム、産婦人科後期研修プログラム、小児科後期研修プログラム、皮膚科後期研修プログラム、眼科専門医取得コース、耳鼻咽喉・頭頸部外科後期研修プログラム、精神科専門医取得コース、三重大学家庭医療学プログラム、放射線科専門医取得コース、病理部研修プログラム

2 研修の実績

研修医の人数	61人
--------	-----

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
小林 裕康	呼吸器内科	講師	27年	
岩佐 元雄	消化器・肝臓内科	准教授	28年	
中村 真潮	循環器・総合内科	教授	26年	
石川 英二	腎臓内科	講師	19年	
谷口 彰	神経内科	講師	25年	H7.9.1~H9.3.31休職
榎屋 正浩	血液・腫瘍内科	准教授	28年	
矢野 裕	糖尿病内分泌内科	准教授	29年	
新保 秀人	心臓血管・呼吸器外科	教授	35年	
毛利 靖彦	消化管・小児外科	准教授	24年	
花村 典子	乳腺外科	講師	22年	
平山 雅浩	小児科	准教授	28年	
谷井 久志	精神科	准教授	22年	
長谷川 正裕	整形外科	講師	24年	
当麻 直樹	脳神経外科	講師	20年	H23.7.1~H25.6.30休職
山中 恵一	皮膚科	准教授	21年	H15.5.16~H17.6.30休職
杉村 芳樹	泌尿器科	教授	36年	
有馬 公伸	泌尿器科	准教授	34年	
田畑 務	産婦人科	准教授	28年	
近藤 峰生	眼科	教授	23年	H11.1.25~H13.1.25休職
竹内 万彦	耳鼻咽喉科	教授	30年	
佐久間 肇	放射線科	教授	29年	H5.11.1~H8.3.31休職
宮部 雅幸	麻酔科	教授	35年	
武田 多一	救急科	准教授	28年	
乾 真登可	歯科口腔外科	准教授	35年	
伊佐地 秀司	肝胆膵外科	教授	35年	
白石 泰三	病理部	教授	35年	
竹村 洋典	総合診療科	教授	26年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

- ・研修の主な内容

- ・研修の期間・実施回数

- ・研修の参加人数

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

- ・研修の主な内容

個人情報漏洩防止に関する研修

- ・研修の期間・実施回数

2回（平成26年2月）

- ・研修の参加人数

380人

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

- ・研修の主な内容

- ・研修の期間・実施回数

- ・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。なお、平成二十六年度中の業務報告においては、平成二十六年四月以降の実績（計画）を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかにすること）。

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 2. 現状
管理責任者氏名	病院長 伊藤 正明
管理担当者氏名	中央放射線部長 佐久間 肇 医療安全・感染管理部長 兼児 敏浩 事務部総務課長 山田 浩之 薬剤部長 奥田 真弘 医療福祉支援センター長 内田 恵一 事務部医療サービス課長 草川弥生

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録		各診療科	全科電子カルテを導入 紙カルテは、 外来：一患者各診療科カルテ 入院：一患者共通カルテ方式をとっている。 また、紙カルテは ①外来患者は外来カルテ庫 ②入院患者は入院中は各科病棟、退院後は病歴室に保管。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿		総務課
	高度の医療の提供の実績	医療サービス課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	医療サービス課	
	高度の医療の研修の実績	総務課	
	閲覧実績	総務課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医療サービス課	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医療サービス課、薬剤部	
第規 一則 号第 一に 掲 条 の 十 一 体 制 第 一 確 項 保 各 の 号 状 及 び 第 九 条 の 二 十 第 一 項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療サービス課、医療安全・感染管理部	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	総務課、医療サービス課、医療安全・感染管理部	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	総務課、医療サービス課、医療安全・感染管理部	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療サービス課、医療安全・感染管理部	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療サービス課、医療安全・感染管理部	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	総務課	
	医療に係る安全管理を行う部門の配置状況	医療サービス課、医療安全・感染管理部	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療サービス課、医療福祉支援センター	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則	院内感染のための指針の策定状況	総務課
	第一条	院内感染対策のための委員会の開催状況	総務課
	第十一条	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	総務課
	第一項各号	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	総務課
	及び第九条	医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	総務課
	第二十三項	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	総務課 薬剤部
	第一号に掲げる	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
	体制の	医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
	確保の	医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	総務課
	状況	従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	総務課 臨床工学部
	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	経営管理課 臨床工学部	
	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学部	

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状	
閲覧責任者氏名	病院長 伊藤 正明		
閲覧担当者氏名	事務部総務課長 山田 浩之		
閲覧の求めに応じる場所	病態医科学研究棟2階 大会議室		
閲覧の手続の概要			
①規程に定められた閲覧申込書を、原則として閲覧を希望する2週間前までに病院長に提出する			
②病院長は、前項の申込みを適当と認めるときは、閲覧承認書(別紙様式第2)を交付する			
③閲覧に際しては、閲覧担当者が立ち会った上でおこなう			

(注) 既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0件
閲覧者別	医師	延	0件
	歯科医師	延	0件
	国	延	0件
	地方公共団体	延	0件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第6)

規則第1条の1第1項各号及び第9条の2第3第1項第1号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・指針の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">・安全管理のための委員会、その他医療機関内の組織に関する基本事項・安全管理のための職員研修に関する基本方針・医療機関内における事故報告書等の医療に係る安全確保のための改善策に関する基本方針・医療事故等発生への対応に関する基本方針・患者からの相談への対応に関する指針・その他医療安全の推進のために必要な基本方針	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 75 回
<p>・活動の主な内容：</p> <p>○医療問題対策委員会（年11回） 医療法制に関する事項、医療事故の予防に関する事項、医療事故発生時の対策に関する事項、医療紛争の処理に関する事項及び医療訴訟に関する事項の審議を行う。</p> <p>○安全管理部会議（年11回） インシデントレポートの収集と管理、報告された事故の原因や状況の分析、原因分析の結果を踏まえて事故発生の防止策と事故発生後の対応策を講じ、必要な情報を現場のスタッフにフィードバックする。 また、医療事故防止に係る病院内の巡視・点検・評価に関すること、医療事故防止にかかわる業務改善の提言・指導に関すること、安全管理に係わる教育・研修・啓発に関すること、医療事故防止対策マニュアルに関すること、ヒヤリハットニュースの発行に関すること、リスクマネージャー会議に関すること。</p> <p>○リスクマネージャー会議（年6回） 医療問題対策委員会及び安全管理室会議において決定した事故防止策・対応策等の必要な情報を医療現場に周知徹底させる。</p> <p>○医療の質・倫理検討委員会（年11回） 死亡例及び重症合併症例の検討、先端医療、終末期医療、診療拒否、移植医療、その他の倫理的問題について審議する。</p>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 3 回
<p>・研修の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">・安全管理について・医療事故の防止について・医薬品の安全使用について・医療機器について・健康診断について	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・医療機関内における事故報告等の整備 <input checked="" type="radio"/>有・無)</p> <p>・その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">・ヒヤリハットニュースを発行(月1回及び必要に応じて随時)し、リスクマネージャー会議を開催(年6回)することにより、リスクマネージャーを通じて、インシデントレポートから積極的に収集した情報並びに医療問題対策委員会、医療の質・倫理検討委員会及び安全管理部会議において決定した事故防止策・対応策等の必要な情報を医療現場に周知徹底する。・各医療現場のリスクマネージャーにより、医療事故の原因及び防止方法並びに医療体制の改善方法について独自に検討及び提言を行う。・各医療現場のリスクマネージャーにより、独自に事故防止のための研修会及び勉強会を開き、医療事故防止のための啓蒙活動を行う。	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有(3名)・無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有(4名)・無

⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	○有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・所属職員：専任（ 3 ）名 兼任（ ）名 ・活動の主な内容： <p>インシデントレポートの検討や、事故防止対策の立案、現場の点検・改善への支援、専門委員会への検討や改善の申し入れ、職員及び学生への安全研修の企画や運営、「ヒヤリハットニュース」の発行、リスクマネージャーによる情報提供を主たる業務とする。</p>	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	○有・無

(様式第6)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の整備状況	有・無								
<p>・ 指針の主な内容：</p> <table border="0"><tr><td>1. 院内感染対策に関する基本的な考え方</td><td>2. 委員会等の組織に関する基本的事項</td></tr><tr><td>3. 職員研修に関する基本方針</td><td>4. 発生状況の報告に関する基本方針</td></tr><tr><td>5. 感染発生対応に関する基本方針</td><td>6. 指針の閲覧に関する基本方針</td></tr><tr><td>7. その他の必要な基本方針</td><td></td></tr></table>		1. 院内感染対策に関する基本的な考え方	2. 委員会等の組織に関する基本的事項	3. 職員研修に関する基本方針	4. 発生状況の報告に関する基本方針	5. 感染発生対応に関する基本方針	6. 指針の閲覧に関する基本方針	7. その他の必要な基本方針	
1. 院内感染対策に関する基本的な考え方	2. 委員会等の組織に関する基本的事項								
3. 職員研修に関する基本方針	4. 発生状況の報告に関する基本方針								
5. 感染発生対応に関する基本方針	6. 指針の閲覧に関する基本方針								
7. その他の必要な基本方針									
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 11 回								
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>1. 院内感染の実態の把握，薬剤耐性の動向その他院内感染のための調査，研究を行う。 2. 感染症患者及び健康保菌者等の取扱い，滅菌及び消毒，清潔区域及び医療材料の清潔保持その他院内感染防止のための予防対策を行う。 3. 院内感染防止についての指針の作成及び職員の教育，指導を行う。</p>									
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 2 回								
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>従業者の感染管理に関する知識向上を図っている。（院内感染対策、職員手帳、H I V感染症 等）</p>									
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況									
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 <input checked="" type="radio"/>有・無</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>地域の感染対策強化を図るために，感染対策セミナーを行っている。（月1回程度）</p>									

(様式第6)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 5 回
・研修の主な内容： ・医薬品の安全使用のための業務に関する手順書について ・麻薬の取扱いについて	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・手順書の作成 有・無 ・業務の主な内容： 1. 医薬品の採用・購入に関する事項 2. 医薬品の管理に関する事項（麻薬等の管理方法等） 3. 患者の持参薬歴情報の収集方法、処方箋の記載方法 4. 患者に対する与薬や服薬指導に関する事項 5. 医薬品の安全使用に係る情報の取扱いに関する事項 6. 他施設（病院等、薬局等）との関係に関する事項	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・医薬品に係る情報の収集の整備 有・無 ・その他の改善のための方策の主な内容： 【収集方法】 医薬品に係る添付文書等の収集、メーカー等から収集、インターネット、文献等からの収集 【周知方法等】 薬剤部発行の院内医薬品情報誌に掲載し周知、オンライン医薬品集に「お知らせ」として掲載し周知、薬剤部ホームページへの掲載、必要に応じて院内メール又は文書等の通知にて周知、病棟担当薬剤師がカンファレンス等にて説明し周知 【改善方法等】 業務実施状況を確認し、必要に応じて手順書の改定を行う院内で発生した副作用を収集する体制の整備	

(様式第6)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 12 回
・ 研修の主な内容： ①有効性・安全性に関する事項 ②機器の使用方法に関する事項 ③保守点検に関する事項 ④不具合等が発生した場合の対応 ⑤使用に関して特に法令上遵守すべき事項	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 計画の作成 (有・無) ・ 保守点検の主な内容： 臨床工学技士による点検とメーカー委託による点検の実施	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 1. 装置毎に添付文書・保守点検マニュアル及び安全性情報を冊子として配布 2. 管理、機器に関わる者に関してはWG等を設置し周知徹底を行う 3. 医薬品医療機器総合機構への病院ホームページ及びME室ホームページからのリンク 4. ME室ホームページからのマニュアル等の閲覧システム 5. 看護師と連携した医療機器中央管理委員会（年4回開催）にて周知	

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	○有 ・ 無
・ 評価を行った機関名、評価を受けた時期	
日本医療機能評価機構が実施する病院機能評価の認定を受けている。(2005年7月認定, 2010年更新)	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	○有 ・ 無
・ 情報発信の方法、内容等の概要	
病院ホームページのほか、季刊広報誌を発行して駅、ショッピングセンターなどに置いて手にとってもらい、地域住民にむけて情報発信を行っている。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	○有 ・ 無
・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要	
がんセンター等で、診療科間及び職種を越えた連携によるチーム医療、集学的治療を推進している。	